



水 2  
487  
卷

東京書林  
學校圖書  
信

# 言傳

明治七年八月六日  
松悦堂梓

松悦堂梓

明治七年四月一日

物集高見著

# 日本文法問答

東京書林

松悦堂梓

信

通

思

廣文通

想

之

廣文通

也

撰

闕

廣文館公是字

二

明治戊寅紀元首  
一六居士侯題



日本文法問答

例言



一 余曩ニ日本文典ヲ著シ文字論ヨリ属辞論ニ  
 至レリ然ルニ文語ノ書タルヤ大率初學ニ在  
 テハ讀ミ難ク倦ミ易シトス故ニ更ニ兒童ノ  
 爲ニ俗談平話ヲ以テ其別記ヲ綴ル即チ是篇  
 ナリ

一 此書文字論ヨリ文章論ニ至ルマデ八回五編

ヲ以テ終ル其間或ハ辞格ノ精微ニ涉ル者ハ  
本書ニ譲リテ省略スルヲアリ覽者幸ニ怪ム  
ト勿レ

明治十一年三月

日本文法問答

初編目次

第一回 文法總論

第二回 文字論

音標字

平假字

偏旁假字

五十音

母音 ボイン

子音 レイン

濁音 ダクイン

第三回 ダイサンクワイ

言語論ノ上 ゲンギヨロン カミ

言語ノ要旨 ゲンギヨ エウシ

體言 タイゲン

體言ノ種類 タイゲン レユルキ

用言 ヨウゲン

用言ノ種類 ヨウゲン レユルキ

作用言 サヨウゲン

活辞ノ種類 カクジ レユルキ

形状言 ケイジャウゲン

接辞 セツジ

接辞ノ種類 セツジ レユルキ

日本文法問答

日本文法問答



豊後 物集 高見



第一回 文法總論

問 文法書ハ何等ノ事ヲ論ジ何等ノ事ヲ記シ

何等ノ爲ニ作ルカ

答 文法書ハ我々が思念ヲ言ヒ出スベキ邦語

及ビ我々が思念ヲ書キ出スベキ國文ノ法

ヲ論ジ其規則ヲ記シ我々ヲシテ十分ニ意

日本文法問答



想ヲ他人ニ告知シ得セシムベキ爲ニ作ル  
書ニ係ル

文法書ヲ學ブニ非ザレバ我々が思想ヲ十分ニ言ヒ出シ書キ出ス一能ハザルベキカ

然リ

我々が平生用フル所ノ言語文章ニ於テ

誤アリヤ

然リ

我々が平生用フル所ノ言語文章ニ錯誤アリ

リ氏他人ノ聞テ會得セザルヲナキハ如何

我々が平生用フル所ノ言語文章ニハ錯誤

アレ氏他人ノ聞テ甚シキ誤解ヲ爲ザル者

ハ一ハ土地ノ習慣ト一ハ聞ク者ノ推量ヲ

用フルトニ因レリ

我々が平生ノ遺辭ニ在ル錯誤ノ中其最モ

甚シキ者ハ如何

刀... 日... 二

答 我々ガ平生ノ遺辭ニ在ル錯誤ノ中最モ甚

シキ者ハ自他ノ別ヲ失フト時刻ノ差ヲ誤

ルトノ二個トスハ自他及ビ時刻ノ解

問 自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ルルハ日用

ニ於テ障碍ヲ生ズルコトアリヤ

答 日用ニ障碍ヲ生ズルコトアリ

問 自他ノ別ヲ失フヨリ生ズル障碍ノ最モ甚

シキ者ハ如何

答 自他ノ別ヲ失フキハ趣意ヲ轉倒スルコトア

リ趣意ノ轉倒ヨリ生ズル種々ノ困難ハ技

擧ニ堪ヘザルベシ

問 時刻ノ差ヲ誤ルヨリ生ズル障碍ノ最モ甚

シキ者ハ如何

答 時刻ノ差ヲ誤ルルハ譬ヘバ未ダ金錢ハ收

領サルニ已ニ收領シ状ノ證書ヲ與フル類

ノ失誤ヲ生ゼン

問 自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ル原因ハ如何

自他ノ別ヲ失ヒ時刻ノ差ヲ誤ル原因ハ其

答 土地ノ方言訛言ヲ呼ビ馴ルニ生ジ其鄙

語ヨリ出ル種々ノ正シカラサル法ヲ用フ

ルニ成ル者ナリ

此二個ノ錯誤ハ古來皆然リヤ

問 上代ハ然ラズ中古ヨリ稍其萌芽ヲ生ジ近

世最モ甚シトス

問 文法書ノ規則ハ何ニ因テ立ツカ

文法書ノ規則ハ古人ノ遣辞行文ノ法ニ因

答 テ立ツ

問 文法書ノ部分ハ如何

文法書ノ部分ハ普通ニ文字論言語論文

答 論ノ三個トス

問 此三個ノ部分ハ何ニ因テ成ルカ

此三個ノ部分ハ何ニ因テ成ルカ

刃 編 日本文法問答 日

答 文字論ハ文字ニ因リ言語論ハ言語ニ因リ

文章論ハ文章ニ因テ論ス

第二回 文字論

問 文字トハ何等ノ文字ヲ指スカ

答 我々が平生ニ呼ブ所ノ声音ノ記標ニ用フ

ル文字ヲ云フ

問 聲音ノ記標ニ用フル文字ノ數ハ幾許アル

カ

答 日本ニ於テ聲音ノ記標ニ用フル文字ノ數

ハ五十アリ

問 文字ノ形ハ如何

答 文字ノ形ハ左ノ如シ

あいうえお かきくけこ さ志せそ

たちつと なにぬねの はひふへほ

まみむめも やゆゆよ らりるれろ

わを字急を

アイウエオ カキクケコ サシスセソ

タチツテト ナニヌネノ ハヒフヘホ

マミムメモ ヤレユルヨ ラリルレロ

ワ井干エヲ

問 大ナル形ノ文字ノ名ハ如何オホイ カタチ モシジ ナ イカニ

答 大ナル形ノ文字ハ平假字體ノ五十音字トオホイ カタチ モシジ ヒラガ ナタイ ゴジフインジ

名ヅク

問 小サキ形ノ文字ノ名ハ如何チヒ カタチ モシジ ナ イカニ

答 小サキ形ノ文字ハ扁旁假字體ノ五十音字チヒ カタチ モシジ カタチ カナ タイ ゴジフインジ

ト名ヅク

問 日本ニ於テハ此五十字ニテ種々ノ聲音ヲニホン オイ ヲゴジフジ いくく コエ

記スニ足ラザル一無キヤシル 半音 タ ナ

答 五十字ニテ足ラザル一無シ然レ氏濁音トゴジフジ タ ナ シカ 氏 タクイン

半濁音ヲ記スニハ又左ノ如ク清音ノ文字ハンタクイン シル マタサ ゴト セイイン モシジ

ノ肩ニマ点或ハ〇点ヲ加ヘテ其識ト爲スカタ テンアルヒ テシ ソノシシ

一アリ

濁音

か	き	く	け	こ	さ	し	せ	そ	
た	ち	つ	て	と	は	ひ	ふ	へ	ほ
カ	キ	ク	ケ	コ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
タ	チ	ツ	テ	ト	サ	シ	ス	セ	ソ

半濁音

ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
は	ひ	ふ	へ	ほ

問

五十音字ヲ以テ記ス五十ノ音ニ種類アリ

ヤ

五十音ニ二個ノ種類アリ一ツヲ母音ト称

ヒ一ツヲ子音ト称フ

問

五十音ノ中幾個ヲ母音ト爲スカ

答

五十音ノ中あいうえおノ五個ヲ母音ト爲

ス如何トナレバ此五字ハ單一ナル声ニシ

テ長ク引テ呼ブニモ韻ニ他音ヲ生ゼズ

あーア いーイ うーウ えーエ おーオ ノ如シ

問

五十音ノ中幾個ヲ子音ト爲スカ

答

五十音ノ中母音ノ外ノ四十五個ヲ子音ト  
爲ス如何トナレバ此四十五字ハ單一ナル  
聲ニ非ズシテ複音ナリ故ニ長ク引テ呼ブ  
中ハ必ズ其韻ニ母音ヲ見ス則チ左ニ擧ル  
所ノ子音ノ韻ヲ記セル扁旁假字ノ母音ナ  
ルヲ見ヨ

加<sup>カ</sup>キ<sup>キ</sup>ク<sup>ク</sup>ケ<sup>ケ</sup>コ<sup>コ</sup>      さ<sup>サ</sup>志<sup>シ</sup>せ<sup>セ</sup>そ<sup>ソ</sup>

た<sup>タ</sup>ち<sup>チ</sup>つ<sup>ツ</sup>て<sup>テ</sup>と<sup>ト</sup>      な<sup>ナ</sup>に<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>ね<sup>ネ</sup>の<sup>ノ</sup>

は<sup>ハ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>ふ<sup>フ</sup>へ<sup>ヘ</sup>ほ<sup>ホ</sup>      ま<sup>マ</sup>み<sup>ミ</sup>む<sup>ム</sup>め<sup>メ</sup>も<sup>モ</sup>

や<sup>ヤ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>よ<sup>ヨ</sup>      ら<sup>ラ</sup>り<sup>リ</sup>る<sup>ル</sup>ろ<sup>ロ</sup>

わ<sup>ワ</sup>ゐ<sup>ヰ</sup>ゑ<sup>ヱ</sup>を<sup>ヱ</sup>

問

子音ハ何ノ故ニ因テ其韻ニ母音ヲ有ツカ  
子音ノ韻ニ母音ヲ有ツハ子音ニ七個ノ原  
音アリテ母音ト相結合シテ成タル原因ヲ  
ルヲ以テナリ

問

七個ノ原音トハ如何

ナ、ツ      モトゴエ      イカニ

答 七個ノ原音ハク。スツ。又。フ。ム。ル。ト。云。フ

問 母音ト結合スル形ハ如何

答 母音ト結合ノ形ニ二種アリ詳ニ初學日本

文典子音ノ條ニ説タルヲ見ヨ

第三回 言語論

問 言語トハ如何

答 言語トハ物名ヲ呼ビ事理ヲ説ク作業ノ称

問 言語ノ緊要ト爲ス所ハ如何

答 言語ノ緊要ト爲ス所ハ我々が心意中ニ在

ル種々ノ思念ヲ他人ニ告知スル媒今ニ用

フル一事ニ在リ

問 我々が心意中ニ在ル百般ノ思念ヲ言語ノ

媒今ニ因テ他人ニ告知スル例ヲ示セ

答 我々が日夜ニ學問ヲ爲ント思ヒ孝行

ノ爲ント思ヒ或ハ飲食ヲ爲ント思ヒ運動



問答

ヲ爲<sup>セ</sup>ント思<sup>オモ</sup>フ類<sup>タテヒ</sup>ノ意想<sup>オモヒ</sup>ヲ人<sup>ヒト</sup>ニ知<sup>シ</sup>ラメント  
 欲<sup>ホツ</sup>スルニハ必<sup>カナラ</sup>ズ言語<sup>コトバ</sup>ト云<sup>イ</sup>フ媒<sup>ナカダチ</sup>今<sup>イマ</sup>ニ因<sup>ヨ</sup>ラザ  
 ル可<sup>ベカ</sup>ラズ若<sup>モ</sup>シ此<sup>コノ</sup>媒<sup>ナカダチ</sup>今<sup>イマ</sup>無<sup>ナ</sup>キ片<sup>ナ</sup>ハ幾<sup>イカホド</sup>許<sup>サイ</sup>ノ才<sup>ゲイ</sup>藝<sup>イ</sup>  
 幾<sup>イカホド</sup>許<sup>チリヤク</sup>ノ知<sup>ヒト</sup>略<sup>ソノ</sup>アル人<sup>ヒト</sup>モ其<sup>シ</sup>思<sup>シ</sup>念<sup>ネン</sup>スル事<sup>コト</sup>ヲ他<sup>ホカ</sup>ニ  
 示<sup>シメ</sup>ス可<sup>フタ</sup>能<sup>フタ</sup>ハザルベシ  
 能<sup>ヨ</sup>ク此<sup>コノ</sup>媒<sup>ナカダチ</sup>今<sup>イマ</sup>ヲ用<sup>モチ</sup>ヒ得<sup>エ</sup>ザル者<sup>モノ</sup>アリヤ  
 嬰<sup>ミド</sup>孩<sup>リゴ</sup>アリ未<sup>イマ</sup>ダ言<sup>コトバ</sup>語<sup>ナ</sup>ニ熟<sup>ナ</sup>レズシテ思<sup>オモヒ</sup>念<sup>ヒ</sup>ヲ告<sup>ツク</sup>  
 ル可<sup>アタ</sup>能<sup>アタ</sup>ハズ其<sup>ソノ</sup>欲<sup>ホツ</sup>スル所<sup>トコロ</sup>アレバ則<sup>スレバ</sup>チ嘸<sup>ア、</sup>々<sup>ト</sup>

問答

泣<sup>ナ</sup>クノミ  
 全<sup>マツタ</sup>ク此<sup>コノ</sup>媒<sup>ナカダチ</sup>今<sup>イマ</sup>ヲ用<sup>モチ</sup>スル可<sup>アタ</sup>能<sup>アタ</sup>ハザル者<sup>モノ</sup>アリヤ  
 啞<sup>オシ</sup>者<sup>シ</sup>ト云<sup>イ</sup>フ者<sup>モノ</sup>アリ言語<sup>コトバ</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>ス可<sup>アタ</sup>能<sup>アタ</sup>ハズ或<sup>アルモ</sup>  
 ハ思<sup>シ</sup>念<sup>ネン</sup>スル事<sup>コト</sup>アリテ人<sup>ヒト</sup>ニ知<sup>シ</sup>ラメント欲<sup>ホツ</sup>ス  
 ル片<sup>イロク</sup>ハ種<sup>イロク</sup>々<sup>ク</sup>ノ手<sup>テ</sup>真<sup>マ</sup>似<sup>ネ</sup>ヲ用<sup>モチ</sup>フ譬<sup>タト</sup>言<sup>コトバ</sup>ヘバ圓<sup>マキ</sup>形<sup>カタチ</sup>ノ  
 物<sup>モノ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>サント欲<sup>ホツ</sup>スレバ手<sup>テ</sup>ヲ以<sup>モツ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>物<sup>モノ</sup>形<sup>カタチ</sup>ヲ  
 爲<sup>ナ</sup>シ方<sup>カタチ</sup>形<sup>カタチ</sup>ノ物<sup>モノ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>サント欲<sup>ホツ</sup>スルニモマタ  
 手<sup>テ</sup>ヲ以<sup>モツ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>物<sup>モノ</sup>形<sup>カタチ</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>ス人<sup>ヒト</sup>見<sup>ミ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>意<sup>ココロ</sup>ヲ了<sup>リヤウ</sup>解<sup>カイ</sup>  
 サトリ

レ得ルノ見レバ則チ笑フ了解レ得ザルヲ  
見レバ則チ已ム而ノ人ノ見テ了解レ得ル  
者ハ實ニ十ノ一二ニ過ズ其困難ノ情状思  
フベシ

問答

言語ニ多クノ種類アリヤ  
日本ノ言語ニ三個ノ種類アリ一ハ體言ト  
云ヒ二ハ用言ト云ヒ三ハ接辭ト云フ

○體言

體言トハ如何

問答

體言ハ人獸禽虫草木土石海陸山川等ヲ呼  
ブ如ク其呼ブ聲ニ轉變ノ働キ無キ言ヲ云  
フ

問答

體言ニ多クノ種類アリヤ

體言ニ四個ノ種類アリ即チ初學日本文典

ニ説ク所ノ實體言虚體言假體言代名言是  
ナリ

問 體言ノ文章上ニ見ル、形ハ如何

答 左ニ舉ルニ章ノ文ニ體言ハ見レタリ

彼人は夜間も月の光りにて書を讀む

學問は其人の後に光りを添ふる如志。

問 二章ノ文ニ見レタル體言ノ中孰ヲ實體言

トシ孰ヲ虚體言ト爲スカ

答 今此二章ノ文ヲ左ニ解剖シテ實體言ト虚

第一章

彼人は

夜間も

月の

光りにて

書を讀む

第二章

學問は

人ハ物體言アル者ナ  
夜間ト云ク物體言アル者ナ  
者ナト云ク物體言アル者ナ  
解者ト云ク物體言アル者ナ  
月ハ物體言アル者ナ  
光ハ物體言アル者ナ  
書ハ物體言アル者ナ





第一條 進む 退く 読む 習ふ

第二條 射る 見る 著る 煮る

第三條 蹴る 綜る 殆る

第四條 起く 耻づ 恨む 報ゆ

第五條 記ゆ 教ふ 勉む 秀ぶ

第六條 往ぬ 爲 有る 居る

此六條ニ舉タル作用言ハ皆其呼ブ聲ニハ  
轉變アレ氏轉變ノ法ニ於テハ其條々ニ從

問 第一條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉

變ノ稱ハ如何

答 第一條ノ辞類ノ轉變ハ譬へバ進ムト云フ

言ニテ例セバ 進ま 進み 進む 進め

ト四段ニ働ク故ニ四段活辞ト稱フ 初學日  
本文典

問 第二條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉

和綴 日本文法問答 十五

變ノ称ハ如何 カリ ナ イカニ

答

第二條ノ辞類ノ轉變ハ譬へバ射ルト云フ ダイテタリ ジル井 ウツリカハリ タト

言ニテ例セバ射 射る 射れト射ノ一 コト レイ イ イ ヒト

音ニるトれトヲ添へテ其活用ヲ補フ故ニ コエ ソノハタラキ オギナ ヌ

上一段活辞ト称フル一段活辞ニ上下ノ別ア カミ イチダンハタラキコト イ

ニ詳

問

第三條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉 ダイサナタリ アゲ ジル井 ウツリカハリ カタチオヨ ソノウツリ

變ノ称ハ如何 カリ ナ イカニ

答

第三條ノ辞類ノ轉變ハ譬へバ蹴ルト云フ ダイサナタリ アゲ ジル井 ウツリカハリ タト

言ニテ例セバ蹴 蹴る 蹴れト蹴ノ一 コト レイ ケ ケ ヒト

音ニるトれトヲ添へテ其活用ヲ補フ故ニ コエ ソノハタラキ オギナ ヌ

下一段活辞ト称フル一段活辞ニ上下ノ別ア シモ イチダンハタラキコト イ

ニ詳

問

第四條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉 ダイテタリ アゲ ジル井 ウツリカハリ カタチオヨ ソノウツリ

變ノ称ハ如何 カリ ナ イカニ

答

第四條ノ辞類ノ轉變ハ譬へバ起クト云フ ダイテタリ アゲ ジル井 ウツリカハリ タト

日本文法問答 十六

新編 日本文法問答 一六

言ニテ例セバ 起キ 起ク 起くる 起

くれト起キ起クノ二段ニ轉リ且るトれト

ヲ添ヘテ其活用ヲ補フ故ニ上二段活辭ト

稱フ 二段活辭ニ上下ノ別アル由

第五條ニ舉タル辭類ノ轉變ノ形及ヒ其轉

變ノ稱ハ如何

答 第五條ノ辭類ノ轉變ハ譬へバ教フト云フ

言ニテ例セバ 教ヘシ 教フシ 教ふる 教

ふれト教へ教ふノ二段ニ轉リ且るトれト

ヲ添ヘテ其活用ヲ補フ故ニ下二段活辭ト

稱フ 二段活辭ニ上下ノ別アル由

第六條ニ舉タル辭類ノ轉變ノ形及ヒ其轉

變ノ稱ハ如何

答 第六條ノ辭類ノ轉變ハ譬へバ往ヌト云フ

言ニテ例セバ 往ヌ 往ぬ 往ぬ

る 往ぬれ 往ぬト種々ニ轉リ變リテ上

刀編 日本文法問答 一六



五條ノ如クナラズ故ニ變格ト云フ初學日本

文典ノ作用言ノ条

ニ尚ホ詳ニ説ケリ

問

此六條ニ働ク辞ニ於テ多クノ固有ノ種類

アリヤ

答

六條ノ活辞ニ固有ノ種類五個アリ能動活辞受動活辞自動活辞役動活辞被役動活辞

ト云フ

問

能動活辞トハ如何

答

能動活辞ハ我が爲ス萬ノ作業ノ他物ニ及

ビ達ル活辞ヲ云フ例ヘバ讀ムト云フ作業

ハ書物ニ及ビ書クト云フ作業ハ文字ニ達

ル類ノ如シ左ニ舉ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ

知ルベシ

をト云フ文字ニ

意ヲ注クベシ

習ふ文字を。書物を。行儀を。

見る。學校を。規則を。生徒を。

初編  
日本文法問答  
十卷

問答

耻づ 不讀を。 不書を。 不學を。  
譽む 學事を。 勉強を。 志操を。

受動活辞トハ如何

受動活辞ハ他ノ爲ス作業ヲ我ニ受ル活辞

ヲ云フ例ヘバ他ノ爲ス譽ル作業毀ル作業

ヲ我ニ受テ云フキハ譽ラル毀ラルト云フ

類ノ如ク左ニ舉ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知

ルベシ

問答

諫らる 父母に。 教師に。 朋友に。  
留らる 學校に。 故郷に。 親里に。

自動活辞トハ如何

自動活辞ハ爲ス作業ノ其爲ス物體ノミニ

止リテ他物ニ關係ナキ活辞ヲ云フ例ヘバ

犬が走る 猫が睡るノ類ノ如ク其作業ハ其

爲ス者ノミニ係レリ左ニ舉ル例ヲ推テ其他

初編  
日本文法問答  
一乙

問答

ヲ準<sup>ナラ</sup>へ知<sup>レ</sup>ルベシ  
 照<sup>テ</sup>る 日<sup>ヒ</sup>が 月<sup>ツキ</sup>が 珠<sup>タマ</sup>が  
 意<sup>ガ</sup>ヲ注<sup>ツ</sup>クベシ 文<sup>モン</sup>字<sup>ジ</sup>ニ  
 干<sup>ヒ</sup>る 潮<sup>シホ</sup>が 衣<sup>ヨモ</sup>が 冊<sup>サウ</sup>子<sup>シ</sup>が  
 盡<sup>ツ</sup>く 筆<sup>フデ</sup>が 紙<sup>カミ</sup>が 墨<sup>スミ</sup>が  
 晴<sup>ハ</sup>る 天<sup>ソラ</sup>が 雨<sup>アメ</sup>が 心<sup>ココロ</sup>が  
 役<sup>エキ</sup>動<sup>ドウ</sup>活<sup>カツ</sup>辞<sup>ジ</sup>トハ如何<sup>イカニ</sup>  
 役<sup>エキ</sup>動<sup>ドウ</sup>活<sup>カツ</sup>辞<sup>ジ</sup>ハ他人<sup>ホカノヒト</sup>ニ命<sup>メイ</sup>ジテ萬<sup>マン</sup>ノ作<sup>ワ</sup>業<sup>ヤク</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>サ

問答

シムル 活<sup>カツ</sup>辞<sup>ジ</sup>ヲ云<sup>イ</sup>フ例<sup>レイ</sup>ヘバ生徒<sup>セイテイ</sup>ニ勉<sup>ベン</sup>強<sup>キヤウ</sup>を  
 小<sup>コ</sup>兒<sup>ニ</sup>に書<sup>シヨ</sup>を讀<sup>ヨク</sup>まノ如<sup>ゴト</sup>シ左<sup>サ</sup>ニ舉<sup>アゲ</sup>ル例<sup>レイ</sup>ヲ推<sup>オシ</sup>  
 テ其他<sup>ソノホカ</sup>ヲ準<sup>ナラ</sup>へ知<sup>レ</sup>ルベシ  
 勵<sup>ハゲ</sup>まを 生徒<sup>セイテイ</sup>を 朋友<sup>トモ</sup>を 我<sup>ワガ</sup>子<sup>コ</sup>を  
 休<sup>ヤス</sup>まを 學<sup>ガク</sup>校<sup>カウ</sup>を 習<sup>テナラ</sup>字<sup>ヒ</sup>を 誓<sup>ケイ</sup>古<sup>コ</sup>を  
 被<sup>ヒ</sup>役<sup>エキ</sup>動<sup>ドウ</sup>活<sup>カツ</sup>辞<sup>ジ</sup>トハ如何<sup>イカニ</sup>  
 被<sup>ヒ</sup>役<sup>エキ</sup>動<sup>ドウ</sup>活<sup>カツ</sup>辞<sup>ジ</sup>ハ他人<sup>ホカノヒト</sup>ニ命<sup>メイ</sup>ゼラレテ萬<sup>マン</sup>ノ作<sup>ワ</sup>業<sup>ヤク</sup>

ヲ爲ス活辭ヲ云フ例ヘバ 稻田の雀を父に  
逐せらるる稻を負たる牛を母に牽せらるる  
如シ左ニ擧ル例ヲ推テ其他ヲ準ヘ知ルベ  
シ

に。ト云フ文字ニ  
意ヲ注クベシ

讀せらる 父に。 母に。 師に。  
書せらる 父に。 母に。 師に。

問 此六條ニ働ク五種ノ活辭ノ文章上ニ見ル

形ハ如何

答 六條五種ノ活辭ハ左ノ七章ノ文ニ見レタ

教師の善く教ふる生徒は學歩が進む。  
彼學校の生徒は運動の時に帽を着る。  
此犬が毎日彼學校の悪生徒に蹴らる。  
學校は生徒が互に相競て朝早く起く。  
教師は生徒に學校の規則を記えさせ。

規則に違悖爲る兒は教師に去せらる。

彼塾には睦して學ぶ兄弟の兒が居る。

問

此七章ノ文ニ見レタル作用言ハ孰ヲ何條

ノ活用トシ孰ヲ何種ノ活辞ト爲スカ

答

今此七章ノ文ヲ左ニ解剖シテ其活用並ニ

種類ヲ示スベシ

第一章

此章ニテハガト云フ文

教師の

善く

教ふる

生徒は

學歩が。

進む

第二章

彼學校の

此章ニテハガト云フ文

進ムト云フ言ハ第一章ノ

生徒が。 學校は。 第四章。 蹴らる。 悪生徒に。 彼學校の。 毎日。

字此  
 ニ 章 動 一 二 蹴  
 意 ニ 活 段 舉 ら  
 ヲ テ 辞 ニ タ る  
 注 ハ ナ 働 ル ト  
 テ が リ ク 辞 云イ  
 見 ト 受 類 井 フ  
 ル 云イ ニ 言  
 ベ フ テ ハ  
 レ 文 即 第 三 條  
 下

此犬が。 第三章。 著る。 帽を。 時に。 運動の。 生徒は。

字此  
 ニ 章 能 上 ニ 著  
 意 ニ 動 一 舉 る  
 ヲ テ 活 段 タ ト  
 注 ハ 辞 ニ ル 云イ  
 テ 記 ナ 働 辞 フ  
 見 ト リ ク 類 井 言  
 ル 云イ ニ ハ  
 ベ フ テ 第 二 條  
 レ 文 即 子

和漢文法問答

九三

互タカヒに

相アヒ競キトて

朝アサ早ハヤく

起オく

第ダイ五ゴ章シヤウ

教ケウ師シは

生セイ徒トに

學ガク校カウの

規キ則ソクを

記オホ之ノさサまマ

第ダイ六ロク章シヤウ

規キ則ソクに

違ヒ悖ハイ爲スる

兒コドモは

字ジ此コノニ章シヤウ動ドウ段ダン擧キョウ起キ ||  
意イニ活カクニタタく ||  
ヲテ辞ジ勤キンルト ||  
注チュウハナナク辞ジ云クニイ ||  
テをヲリ自ジ類ルイフ ||  
見ミト云クニイ ||  
ルベシニ言クニハ第ダイ四シ條ジョウ ||  
ニニ

字ジ此コノニ章シヤウ役ヤク下カ條ジョウ記キ ||  
意イニ動ドウニニニ之ノ ||  
ヲテ活カク段ダン擧キョウさ ||  
注チュウハ辞ジニタタト ||  
テにニ勤キンルト云クニイ ||  
見ミト云クニイ ||  
ルベシニ言クニハ第ダイ五ゴ ||  
チ

刀編

日本書紀

七四

教師に。

去せらる

第七章

此文此

去せらるト云ハ第五  
條ニ擧タルト云ハ  
下ニ段ニ働ク被  
役ニ動活辭ナリ  
章ニテハガトリ云フ  
字ニ意ヲ注クベシ

彼塾には

睦志て

學ぶ

兄弟の

兒が。

居る

居るト云ハ第六條ニ  
擧タル辭類ニテ即チ  
變格ニ

問

用言ノ中萬ノ事物ノ形容ヲ呼ブ辭類ノ名

ハ如何

答

萬ノ事物ノ形容ヲ呼ブ用言ハ形状言ト名

ツク

問

形状言ノ例ヲ示セ

初編 日本文法問答 七二



答

形状言ノ例ハ左ノ如シ

第一條

白志

黒志

厚志

薄志

善志

深志

第二條

美志

嬉志

樂志

頼志

悪志

正志

此二條ニ舉タル形状言ハ共ニ其呼ブ聲ニ

ハ轉變アレ氏轉變ノ法ニ於テハ其條ニ從

問

第一條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉

變ノ稱ハ如何

答

第一條ノ辞類ノ轉變ハ譬へバ白シト云フ

辞ニテ例セバ白さ 白く 白志 白さ

白ゲト單ニさく志さげノ五個ニ働ク故ニ

單辞ト稱フ 初學日本文典形状

問

第二條ニ舉タル辞類ノ轉變ノ形及ビ其轉

變ノ稱ハ如何

答

第二條ノ辞類ノ轉變ハ譬ヘバ美シト云フ

辞ニテ例セバ 美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク

美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク 美志ウツク

上ニ志ノ辞ヲ加ヘテ 志ウツク 志ウツク 志ウツク 志ウツク 志ウツク

ゲト働ク故ニ複辞ト称フ 初學日本文典形 状言ノ條ニ詳也

形状言ノ文章上ニ見ル、形ハ如何

問 答

左ニ舉ル二章ノ文ニ形状言ハ見レタリ

彼教師は志の篤き人にて生徒も頼志。

彼學校は規則正くて生徒の爲に善志。

問

二章ノ文ニ見レタル形状言ノ中孰ヲ單辞

トシ孰ヲ複辞ト爲スカ

答

今此二章ノ文ヲ左ニ解剖シテ單辞ト複辞

トヲ示スベシ

第一章

彼教師は

志の

篤アツき人ヒトにて

生徒セイトも

頼タモ志

篤アツきキト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
篤アツきキト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
篤アツきキト云イフフ辭ジハハさサくク志シ

頼タモ志シト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
頼タモ志シト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
頼タモ志シト云イフフ辭ジハハさサくク志シ

第二章

彼アノ學校ガクカウは

規則キソク

正タダくクて

生徒セイトの

爲タメに

善ヨシ志

正タダくクト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
正タダくクト云イフフ辭ジハハさサくク志シ  
正タダくクト云イフフ辭ジハハさサくク志シ

○接辞

接辞セツジトハ如何イカニ

接辞セツジハ體言テイゲン用言ヨウゲンノ中間アヒダニ今イマミテ其ソノ連續ツグキヲ

爲ナレズ或スハ其ソノ上下ウヘシタニ置オキテ語コトバノ助タスケニ用モチフル短タン

辭ジヲ云イフ例レイヘバ我ワレハ學校ガクカウニ往ユク汝ニシモ學校ガクカウ

に往け<sup>ユ</sup>ノは<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>ノ如<sup>ゴト</sup>ク又<sup>マタ</sup>彼<sup>カレ</sup>は書<sup>シヨ</sup>を讀<sup>ヨ</sup>みか  
つ習<sup>テナラヒ</sup>字<sup>ジ</sup>を<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>ノ如<sup>ゴト</sup>シ

接辞<sup>セツジ</sup>ニ多<sup>オホ</sup>クノ種<sup>シユル</sup>類<sup>ル</sup>アリヤ

問 接辞<sup>セツジ</sup>ハ其<sup>ソノ</sup>用法<sup>ヨウホウ</sup>ノ差<sup>タガヒ</sup>異<sup>ヨリ</sup>ニ因<sup>ヨリ</sup>テ左<sup>サ</sup>ノ二十<sup>ニジフ</sup>種<sup>シユル</sup>類<sup>ル</sup>

二分<sup>フカ</sup>ツ

感<sup>カン</sup>ジヲ呼<sup>ヨ</sup>ブニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 嘆<sup>タン</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

願<sup>ネガヒ</sup>望<sup>ヒ</sup>ヲ呼<sup>ヨ</sup>ブニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 希<sup>キ</sup>求<sup>キウ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

下<sup>ゲ</sup>知<sup>チ</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 命<sup>メイ</sup>令<sup>レイ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

人<sup>ヒト</sup>ヲ禁<sup>シム</sup>ムルニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 禁<sup>キン</sup>止<sup>シ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

物<sup>モノ</sup>ヲ指<sup>サシ</sup>示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 指<sup>シ</sup>示<sup>シ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

現<sup>イマノトキ</sup>在<sup>キ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 現<sup>ゲン</sup>在<sup>ザイ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

過<sup>スキサリシトキ</sup>去<sup>キ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 過<sup>クワ</sup>去<sup>コ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

未<sup>イマクモナルトキ</sup>來<sup>キ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 將<sup>シヤウ</sup>來<sup>ライ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

否<sup>シカラサル</sup>不<sup>ク</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 否<sup>ヒ</sup>不<sup>フ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

疑<sup>ウタガヒ</sup>惑<sup>ヒ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 疑<sup>ギ</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

反<sup>ウラニカヘル</sup>動<sup>ドウ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スニ用<sup>モチ</sup>フル辞<sup>コトバ</sup>ヲ 反<sup>ハン</sup>辞<sup>ジ</sup>ト称<sup>イ</sup>フ

新編 日本文法問答 十九

二事ヲ示スニ用フル辞ヲ

兩辞ト称フ

程度ヲ示スニ用フル辞ヲ

分量辞ト称フ

想像ヲ呼ブニ用フル辞ヲ

想像辞ト称フ

変定ヲ示スニ用フル辞ヲ

変定辞ト称フ

比准ヲ示スニ用フル辞ヲ

比准辞ト称フ

辞句ノ補助ニ用フル辞ヲ

助辞ト称フ

常ニ句頭ノミニ置ク辞ヲ

句頭接辞ト称フ

上ノ十八種ニ入ガル辞ヲ

一種接辞ト称フ

崇敬ヲ示スニ用フル辞ヲ

崇敬辞ト称フ

問

此二十種中ニ收ムル所ノ接辞ハ如何

答

第二編ニ於テ説クヲ見ヨ

ニホンブンバクモンダクショヘン  
日本文法問答初編 終

日本大文典 全度 全度 全度  
日本文法問答 目録

新刻  
日本文法問答  
三十七

# 新刻書目

物集高見著

一 日本文法問答

全五冊

同著

一 初學日本文典

全貳冊 近刻

同著

一 日本大文典

全貳冊 近刻

子安信成著

一 皇朝史略質問錄

全三冊 近刻

日本文法問答

二編目次

第四回

言語論ノ中

嘆辭ノ解

希求辭ノ解

命令辭ノ解

禁止辭ノ解

指示辭ノ解

二編

日本文法問答目次

二編  
續  
日本文法問答目録

現在辞ノ解 カイ

過去辞ノ解 カイ

将来辞ノ解 カイ

否不辞ノ解 カイ

疑辞ノ解 カイ

反辞ノ解 カイ

兩辞ノ解 カイ

分量辞ノ解 カイ

想像辞ノ解 カイ

炎定辞ノ解 カイ

比准辞ノ解 カイ

助辞ノ解 カイ

句頭接辞ノ解 カイ

一種接辞ノ解 カイ

崇敬辞ノ解 カイ

直讀法ノ辨

現在辞ノ解 カイ  
過去辞ノ解 カイ  
将来辞ノ解 カイ  
否不辞ノ解 カイ  
疑辞ノ解 カイ  
反辞ノ解 カイ  
兩辞ノ解 カイ  
分量辞ノ解 カイ  
想像辞ノ解 カイ  
炎定辞ノ解 カイ  
比准辞ノ解 カイ  
助辞ノ解 カイ  
句頭接辞ノ解 カイ  
一種接辞ノ解 カイ  
崇敬辞ノ解 カイ  
直讀法ノ辨

二編  
日本文法問答目録

漢洋文ノ直讀

接辭ノ直接

接辭ノ間接

形容詞ノ例

形容ヲ見ス體言

形容ヲ見ス作用言

形容ヲ見ス接辭

日本文法問答二編

豊後 物集高見 著

第四回 言語論ノ中

問 接辭ノ種類ハ初編ニ於テ己ニ之ヲ聞ケリ

今各種中ニ収ムル所ノ辭類ヲ舉ルニ先チ

詳ニ其各種ノ辭義ヨリ説ケ

答 嘆辭ハ心意ノ感シヲ呼ブ所ノ嗟嘆ノ辭ニ

シテ感シハ心意ノ事物ニ觸テ動クヲ云ヒ



嗟嘆ハ大息ヲ衝クヲ云フ故ニ感ジテ喜ビ

感ジテ怒リ感ジテ哀シミ感ジテ樂シミ喜

ビテ嘆キ怒リテ嘆キ哀シミテ嘆キ樂シミ

テ嘆ク又父母ヲ見テモ感ジ妻子ヲ見テモ

嘆クベシ而メ此感嘆ハ獨リ人類ノミナラ

ズ天地間ノ有生物ニ於テ是レ無キハ無シ

鳥虫モ亦此感ジアリヤ

問

鳥虫ノ感ジハ如何

答

春鳥ノ花ニ啼キ秋虫ノ露ニ鳴クモ皆其感

ズル所アリテ然ルナリ

獸類モ亦感ジアリヤ

獸類最モ多シトス

獸類ノ感ジハ如何

猿ノ四峽ニ叫ビ鹿ノ秋峰ニ呻フモ皆其感

ジニ堪ヘズシテ然ルナリ

問

日本文法問答

答

日本文法問答

問

答

嘆辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ  
 嘆辞ニ収ムル所ノ辞ニ二個ノ種類アリ其  
 一個ヲ體言ノ如ク活用ナキ者トシ其一個  
 ヲ用言ニ似テ格ヲ有ツ者トス  
 用言ノ格ハ第三編ニ説ク  
 シクニ體言ノ如キ嘆辞ハ  
 あ ああ あな あはれノ類ナリ  
 用言ニ似タル嘆辞ハ  
 や よ も を な か かな  
 云カモト

問

答

此二種ノ嘆辞ハ我々が平生ノ遣辞ニモ亦  
 用フルコトアリヤ  
 喜。怒。哀。樂。ノ情生ル毎ニ必ず用フ事  
 二種ノ嘆辞ノ我々が平生ノ遣辞ニ見ル  
 例ヲ各別ニ示セ  
 二種ノ嘆辞ノ中體言ノ如キ辞類ノ平生ノ  
 遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ

編  
 日本文法問答  
 三

三  
終  
日本文法問答  
三

ああ熱志

あな困志

ああ寒志

あな悲志

用言ニ似タル辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者

ハ左ノ如シ

學校に往けよ

學歩の進む事よ

運動の快さや

學ぶ事の樂さや

問

希求辞ト云フハ如何

希求辞ハ我々が心意ノ中ニ在ル所ノ冀望

ヲ言ヒ出スニ用フル辞類ヲ云フ

問

希求辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

希求辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

ばやががな  
かゝト云フモ同ジ初學  
日本文典希求辞ノ條ニ

詳ナ

問

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

希求辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學問を為ばや

學校に往かばや

二  
編  
日本文法問答  
一

問 命令辞ト云フハ如何

答 命令辞ハ我々が心意ノ中ニ希望フ萬ノ事

ヲ他人ニ命ジテ其事ヲ為サシムルニ用フ

ル辞類ヲ云フ

問 命令辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

答 命令辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

よ ね なむ 今一ツこそト云フ辞アリ

問 此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答 命令辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

遊戯を止めよ 親に孝行せよ

學校に往きぬ 教師に習ひぬ

問 禁止辞ト云フハ如何

答 禁止辞ハ我々が他人ノ作業ヲ見テ其事ヲ

止メサセント思フ心志ヲ言ヒ出スニ用フ

ル辞類ヲ云フ

問 禁止辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

答 禁止辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

二編 日本文法問答 五

答 禁止辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

な そノ類

問 此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答 禁止辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

ガクモン フコタ。 教師の命に背くな。

問 指示辞ト云フハ如何

答 指示辞ハ在ル所ノ事物或ハ往ク所ノ方角

オト ホカノヒト 等ヲ他人ニ其レト指シ示スニ用フル辞類

問 指示辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

に へ の が そ を は

こそ なん なも

問 此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答 指示辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

コレ キウ リ シヨ。 此は究理書ぞ。 彼人は教師ぞ。

友と塾へ入る 師の許へ往く

現在辞ト云フハ如何

現在辞ト云フハ如何  
ケンサイジ イイカニ  
ケンガイジ ゲンガイ トキ シメ  
現在辞ハ現在ノ時ヲ示スニ用フル辞トス

現在トハ目前ノ事ナリ故ニ作業ニテ言ハ  
ケンガイ ノノマヘ コト ユエ ワザ  
現在トハ目前ノ事ナリ故ニ作業ニテ言ハ

其事ヲ為シテ在ルヲ云フ  
ソノコト ナ ア イ  
其事ヲ為シテ在ルヲ云フ  
ホ第三編ニ詳

現在辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ  
ケンガイジ ヲサ トコロ コトバ  
現在辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

現在辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ  
ケンガイジ ヲサ トコロ コトバ  
現在辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

てはなりなるなれ  
コトバ アラハ レイ イカニ  
てはなりなるなれ

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何  
コトバ アラハ レイ イカニ  
此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

現在辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ  
ケンサイジ コトバ アラハ レイ サ  
現在辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

習ひて今讀む 學校に往くなり  
オラ イマヨ ガクカウ  
習ひて今讀む 學校に往くなり

過去辞ト云フハ如何  
クラコジ イイカニ  
過去辞ト云フハ如何

過去辞ハ過去ノ時ヲ示スニ用フル辞トス  
クラコジ クラコ トキ シメ モチ  
過去辞ハ過去ノ時ヲ示スニ用フル辞トス

過去トハ過ぎ去リシ昔ノ事ナリ故ニ作業  
クラコ スサ ムカシ コト ユエ ワザ  
過去トハ過ぎ去リシ昔ノ事ナリ故ニ作業

ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作  
イ スデ ナ シ ス  
ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作

ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作  
イ スデ ナ シ ス  
ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作

問答

てはなりなるなれ  
コトバ アラハ レイ イカニ  
てはなりなるなれ

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何  
コトバ アラハ レイ イカニ  
此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

現在辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ  
ケンサイジ コトバ アラハ レイ サ  
現在辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

習ひて今讀む 學校に往くなり  
オラ イマヨ ガクカウ  
習ひて今讀む 學校に往くなり

過去辞ト云フハ如何  
クラコジ イイカニ  
過去辞ト云フハ如何

過去辞ハ過去ノ時ヲ示スニ用フル辞トス  
クラコジ クラコ トキ シメ モチ  
過去辞ハ過去ノ時ヲ示スニ用フル辞トス

過去トハ過ぎ去リシ昔ノ事ナリ故ニ作業  
クラコ スサ ムカシ コト ユエ ワザ  
過去トハ過ぎ去リシ昔ノ事ナリ故ニ作業

ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作  
イ スデ ナ シ ス  
ニテ言ハハ己ニ為シテ過ぎタルヲ云フ作

二編 日本文法問答 七

ノ時ハ尚ホ第

三編ニ詳ナリ

問 答

過去辞ニ收ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

過去辞ニ收ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

けり ける けれ けん けり

き 志 志か じき じ志

てき て志 ぬ ぬる ぬれ

つ つる つれ たり たる

たれ 過去辞ハ尚ホ此外ニ六個アリ

問 答

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

過去辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學齡に為りき 試験を受けき

學歩は進みぬ 階級も陞りぬ

遊歩に出でつ 運動を為志つ

將來辞ト云フハ如何

將來辞ハ未來ノ時ヲ示スニ用フル辞トス

未來トハ未ダ來タラサル後ノ事ナリ故ニ

二編

日本文法問答

八

作業ニテ言ハバ今其事ヲ為シ始メントス

ルヲ云フ 作業ノ時ハ尚ホ

将来辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

将来辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

む 此むハん め ま志 将来辞ハ尚ホ此  
外ニ九個アリ詳

ニ初學日本文

此辞ノ我々が遺辞ニ見ル、例ハ如何

将来辞ノ遺辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

必教師と為ん 必用られん

問 否不辭ト云フハ如何

答 否不辭ハ其事ノ然カラザルヲ示スニ用

フル辞トス然カラズトハ例へハ見ズ聞カ

スト云フ如ク見ル事聞ク事ノアラザルヲ

云フ

問 否不辭ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

答 否不辭ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

二編 日本文法月令



二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

ざら ざり ざる ざれ ぢ  
ぬ ね で

問 此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何  
答 ヒフジ 遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學問を怠らぬ  
平生戯を為す  
校則に背かぬ  
師命に戻らぬ

問 疑辞ト云フハ如何  
答 ギジ 疑辞ハ我々が心意中ノ疑惑即チ分明ニ知

問 答

リ得ザル種々ノ思念ヲ言ヒ出スニ附テ用  
フル辞類ヲ云フ

疑辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ

疑辞ニ収ムル所ノ辞ニ二個ノ種類アリ其

一個ヲ體言ノ如ク活用ナキ者トシ其一個

ヲ用言ニ似テ格ヲ有ツ者トス 用言ノ格ハ

シクベ 體言ノ如キ疑辞ハ

なに いつ いづれ いく たれ

二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

たが

用言ニ似タル疑辞ハ

か かも や やも など いか

問

此二種ノ疑辞ノ我々が平生ノ遣辞ニ見ル

例ヲ各別ニ示セ

答

二種ノ疑辞ノ中體言ノ如キ辞類ノ平生ノ

遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ

彼はなにぞ なの書の

此人はたれ たれならん

用言ニ似タル辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者

ハ左ノ如シ

學校に往くか 學校の歸りか

洋書を教ふや 横文を習ふや

反辞ト云フハ如何

問

反辞ハ疑辞ノ一變シタル者ニシテ其言ヒ

出ス思想ハ變リテ其裏ニ戻ル者トス裏ニ

三  
白文法  
問答

戻ルト云フハ例へバ讀ムト言ヒテ讀マザ

ル義ニ反リ習フト言ヒテ習ハザル意ニ落

ル類ヲ云フ

反辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

反辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

かは やは

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

反辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學問を廢む可きかは  
懶惰を為す可きかは

兩辞ト云フハ如何

兩辞ハ二個ノ事物ヲ兼タルニ用フル辞ト

又二個ノ事物ヲ兼ヌトハ此事ノ彼事ヲ兼

ネ此人ノ彼人ニ涉リテ其事物ヲ單一ニ見

サヌ者ヲ云フ

兩辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

問

問 答

編  
日本文法問答

答

兩辭ニ収ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

とともどもだにながら

もつ、さへをら

問

此辭ノ我々が遺辭ニ見ルハ例ハ如何

答

兩辭ノ遺辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

友と競て學ぶ 友と試験を受く

讀みつゝ行く 書を見つゝ睡る

問

分量辭ト云フハ如何

答

分量辭ハ事物ノ分量ヲ示スニ用フル辭ト

ス分量トハ其事物ノ輕重多少及ビ其概量

ヲ云フ

問

分量辭ニ収ムル所ノ辭類ヲ擧ゲヨ

答

分量辭ニ収ムル所ノ辭類ハ左ノ如シ

ほとのみまでばかり

問

此辭ノ我々が遺辭ニ見ル、例ハ如何

答

兩辭ノ遺辭ニ見ル、例ハ左ノ如シ

編 日本文法問答 一三



ハ己ニ事ノ一ニ定リタルヲ云フ

問

変定辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

答

変定辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

べく べ志 べきノ類

問

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答

変定辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

師命に従ふべ志 學則を守るべ志

問

比准辞ト云フハ如何

答

比准辞ハ此ヲ彼ニ準フル作業ニ用フル辞

トス準フトハ此物ヲ以テ假ニ彼物ノ列ニ

並べ見ルヲ云フ

問

比准辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

答

比准辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

ごとく ごと志 ごとき

問

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答

比准辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

比准辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

彼の童子は長者のごとく志

彼の學校は官衙のごとく志

問 助辞ト云フハ如何

答 助辞ハ辞ノ足ラザルヲ補ヒ句ノ調ハザル

問 ヲ助クルニ用フル辞類ヲ云フ

答 助辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

問 助辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

答 いろはもを

問 此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

答 縁に志。庭つ鳥

上つ方。下つ方

問 句頭接辞ト云フハ如何

答 句頭接辞ハ常ニ句頭ノミニ置テ用フル辞

類ヲ云フ

問 句頭接辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

二編 日本文法問答 十六

答

句頭接辞ニ収ムル所ノ辞ニ二個ノ種類アリ  
其一個ヲ發語ニ用フル義ナキ者トシ其  
一個ヲ體言ノ如ク活用ナキ者トス發語ニ  
用フル義ナキ辞ハ

い た ま み さ

か そ を け

體言ノ如ク活用ナキ辞ハ

きははち きこぶる かならば

問

此二種ノ句頭接辞ノ我々が平生ノ遣辞  
見ル、例ヲ各別ニ示セ

答

二種ノ句頭接辞ノ中發語ニ用フル辞類ノ  
平生ノ遣辞ニ在ル者ハ左ノ如シ

さ夜中 さ夜衣

を山田 を擲

體言ノ如キ辞類ノ平生ノ遣辞ニ在ル者ハ



左ノ如シ

かならむ讀む

かならむ習ふ

まこぶる熱志

まこぶる寒志

一種接辞ト云フハ如何

一種接辞ハ上ニ舉タル嘆辞以下十八種中

ニ入レ難キ辞類ヲ云フ

一種接辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ舉ゲヨ

一種接辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

ばよりからゆるか志ノ類

此辞ノ我々が遣辞ニ見ル、例ハ如何

一種接辞ノ遣辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

學されは惑ふ 學べば覺悟る

學校より歸る 未明より出づ

崇敬辞ト云フハ如何

崇敬辞ハ其人ニ對シテ崇敬ヲ示スニ用フ

辞トス崇敬トハ崇メ敬フヲ云フ

問 崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ヲ擧ゲヨ  
答 崇敬辞ニ収ムル所ノ辞類ハ左ノ如シ

また まつる たてまつる

たまふ はべる まるらむノ類

而ノ此辞ハ本ト初編ニ於テ示シタル第一  
條ト第五條ノ作用言ニテ皆活用アル辞類  
ナレバ自ラ普通ノ接辞トハ其趣ヲ異ニセ  
リ 初學日本文典接辞

問 此辞ノ我々が遺辞ニ見ル、例ハ如何  
答 崇敬辞ノ遺辞ニ見ル、例ハ左ノ如シ

讀書を為たまふ 習字を為たまふ

教授を為はべる 教へたてまつる

問 嘆辞以下二十種ノ接辞ハ口語或ハ文章ニ  
於テ用ヒザルヲ能ハザルカ  
答 然リ

問 何ヲ以テ然ルカ

二編 日本文法問答

然  
日本文法問答  
十九

答

接辞ハ體言用言ヲ連續ル緊要ノ辞ナルヲ

以テ其口語ト文章ニ論ナク交シテ用ヒガ

ルヲ得ザルナリ

問

體言ヲ以テ物體ヲ示シ用言ヲ以テ其用ヲ

示サバ體用爰ニ備ル亦接辞ノ兼接ヲ待タ

ズシテ連續クベキガ如シ然ルモ尚ホ接辞

ヲ用ヒザルヲ能ハザルカ

答

體言用言ノ接辞ニ於ケルハ之ヲ物ニ譬言フ

ルニ猶人ノ兩岸ニ立テ舟ヲ俟ツガ如シ兩

岸近ク相對ヒテ睫眉ノ相臨ム如キモ舟ヲ

往來シテ之ヲ通ズルヲ無キ片ハ一帶ノ水

ニ阻メラレテ互ニ其意ヲ達スルヲ能ハズ

今接辞ノ體言用言ノ間ヲ接續ルハ猶此舟

ノ兩岸ノ間ヲ往來スルガ如シ

洋書或ハ漢籍ヲ讀ムニ轉讀法ニ因ラズシ

テ直讀スル者アリ斯ノ如キハ接辞ヲ用ヒ

日本文法問答  
二十

ズト雖モ却テ能ク其義ヲ會得シテ誤ラザ  
ル者ハ如何

答

洋書漢籍ヲ直讀スルニハ接辞ヲ用ヒズト  
雖モ其書ノ義ヲ心ニ解クニ至テハ必ず接  
辞ヲ加ヘザル可ラズ若シ接辞ヲ加ヘザル  
片ハ変シテ其義ヲ解クヲ能ハザルナリ今  
試ニ左ニ一例ヲ示ス

it is necessary to learn

grammar.

此洋文ヲ it is necessary to learn

grammar. 一下直讀ストモ其義ヲ心ニ

解クニ至テハ文法書ヲ讀むが必用なるト  
云フ如ク必ずをか 指示なり 現在 等ノ接辞  
ヲ加ヘザレバ其義ヲ解クヲ能ハズ又

文典在初學最不易習  
學校謂教訓子弟之處

此漢文ノ文典在初學最不易習マ夕學校謂  
 教訓子弟之處ト一下直讀ス氏其義ヲ心ニ  
 説クニ至テハ文典は初學に在りて最も習  
 比易から<sup>カク</sup>學校は子弟を教訓る處を謂ふ  
 ト云フ如ク必ずは<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>指示<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>現在<sup>カ</sup>在<sup>カ</sup>否<sup>カ</sup>不<sup>カ</sup>  
 等ノ接辞ヲ加ヘザレバ其義ヲ解ク<sup>カ</sup>一能ハ  
 ザルナリ  
 各種ノ接辞ノ體言或ハ用言ニ續クハ比皆一

答

各種ノ接辞ノ體言或ハ用言ニ續クニ直接  
 スル者アリ又間接スル者アリテ其形一樣  
 ナラズ

問

接辞ノ直接ト云フハ如何

答

接辞ノ直接ハ接辞ノ直ニ體言或ハ用言ニ

問

接辞ノ間接ト云フハ如何

二

日本文法問答

答

接辞ノ間接ハ接辞ノ用言ニ連続クニ辞ヲ

隔テ又ハ句ヲ隔テ、連続ク者ヲ云フ

接辞ノ直接スル例ヲ示セ

問

接辞ノ直接スル例ハ左ノ如シ

體言ニ直接スル例

翔リ志鳥

轉リ志鶯

走り志獸

睡リ志猫

蚊ハ志虫

飛ビ志螢

泳キ志魚

躍リ志鯉

榮エ志樹

馨リ志梅

枯レ志草

靡キ志薄

用言ニ直接スル例

鳥ハ翔ル

鶯ハ轉ル

獸ハ走ル

猫ハ睡ル

虫ハ蚊ハ

螢ハ飛ブ

魚ハ泳ブ

鯉ハ躍ル

問 答

樹は栄ゆ

草は枯る

梅は馨る

薄は靡く

接辞ノ間接スル例ヲ示セ

接辞ノ間接スル例ハ左ノ如シ

辞ヲ隔テ、間接スル例

鳥は空に翔る

鶯は花に轉る

獸は山を走る

猫は膝に睡る

虫は土を岐ふ

螢は澤に飛ぶ

魚は氷に泳ぐ

鯉は淵に躍る

樹は林に栄ゆ

梅は室に馨る

草は野に枯る

薄は風に靡く

句ヲ隔テ、間接スル例

鳥は雲の中に翔る

獸は山の間を走る

虫は土の上を岐ふ

魚は水の中に泳ぐ

樹は夏の林に栄ゆ

草は冬の野に枯る

鶯は梅の花に囀る

猫は客の膝に睡る

螢は萍の上に飛ぶ

鯉は洲の中に躍る

梅は室の内に馨る

薄は秋の風に靡る

問

接辞ノ直接ハ體言用言ノ二個ニ涉レリ而

メ間接ノ用言ノミニ在リテ體言ニ無キハ

如何

答

接辞ハ用言ニハ間接スレモ體言ニハ間接

スルヲ能ハズ如何トナレバ接辞ノ體言ニ

連続クニ一辞或ハ二辞三辞ヲ間ニ夾ム

アリト雖モ夾ム所ノ辞ハ皆其體言ヲ形容

スル詞ナレバ一個ノ長語ノ體言ト看做ス



ヲ以テトリ 一句ノ詞ニシテ體言ト呼ブ者  
アリ詳ニ初學日本文典ニ説ケ

問

接辞ノ體言ニ連續クハ一辞或ハ二辞三辞

ヲ其間ニ夾メル例ヲ舉ゲヨ

答

接辞ノ一辞或ハ二辞三辞ヲ中間ニ夾ミテ下  
ノ體言ニ連續クハ左ノ例ノ如シ

一辞ヲ中間ニ夾メル例

鳥の翔り志大空

獸の走り志奥山

虫の蚊ハ志塵塚

魚の泳ぎ志夏河

樹の栄え志夏山

草の枯れ志冬野

鶯の轉り志小枝

猫の睡り志小膝

螢の飛び志野澤

二編 日本文法問答 七六

鯉コヒの躍ヲドり志シ蒼洲アヲゾチ

梅ウメの馨サヲり志シ朧夜オホロヨ

薄ススキの靡ナヒき志シ秋野アキノ

二ニ辞ジ或アモハ三サン辞ジヲ中アヒダ間ダニ夾ハサムル例レイ

鳥トリの翔ヲケり志シ春ハルの空カラ

獸ケモノの走ハシり志シ冬フユの山ヤマ

虫ムシの歧ハひ志シ草クサの原ハラ

魚ウヲの泳オヨぎ志シ秋アキの河カハ

樹キの栄サカえ志シ夏ナツの山ヤマ

草クサの枯カれ志シ冬フユの野ノ

鶯ウリスの轉サヘツり志シ山家ヤマザトの梅ウメ

猫ネコの睡ネムり志シ賓客マシヤクの膝ヒザ

螢ホタルの飛トび志シ野澤ノザハの萍フナ

鯉コヒの躍ヲドり志シ山河ヤマガハの洲スナ

梅ウメの馨カヲり志シ朧月オホロツキの夕ユヅ

薄ススキの靡ナヒき志シ山家ヤマザトの庭ニハ

日本文法問答目録  
六二

問

中間ニ夾ム辞ハ二辞三辞等ト云フ定數アリヤ

答

中間ニ夾ム辞ニ定レル數ナシ故ニ多キハ

或ハ數十句ニ至ルアルベシ左ニ舉ル所

ノ例ヲ推シテ其他ヲ準ラヘ知ルベシ

六辞ヲ中間ニ夾メル者

鳥の翔り志長閑に晴たる空

七辞ヲ中間ニ夾メル者

獸の走り志紅葉隙無き秋の山

八辞ヲ中間ニ夾メル者

虫の蚊ひ志露滋く置き渡たる野

九辞ヲ中間ニ夾メル者

魚の泳ぎ志綠色に淀める山間の川

問

前ニ接辞ノ體言ニ連續クニ二辞或ハ三辞

ヲ中間ニ夾ムアリト雖モ夾ム所ノ辞ハ

形容詞ナリト答ヘキ然ラバ體言ニ直接ス



問

靡ナビきスキ志ス薄ハク 薄ハクニ靡ナビク者モノアリ靡ナビカ又マタ者モノ  
 テイテイ言ゲンニ直接チヨクセツスル接辞セツジハ其體言ソノテイゲンヲ以テ呼ヨフ  
 所トコロノ事物コト、モノトヲ形容ケイヨウスル者モノナリトセバ其中間ソノアヒダ  
 ニ夾ハサム所トコロノ辞句コトバトクノ有無アリナシニハ關係カ、ハルナキ

答

然シカリ辞句コトバトクノ中間アヒダニ有アルト無ナキトニ關カ、ハラズ  
 故ユエニ辞句コトバトクノ中間アヒダニ在アルキハ中間アヒダノ辞句コトバトクヲ  
 併アハセテ皆ミナ其事物コト、モノトヲ形容ケイヨウスル詞コトバナリ則スナハチ左

ノ例ヲ見ヨ

鳥トリノ翔カケリ志ノド長閑カニ晴ハレタル空ソラ。  
 獸ケモノノ走ハシリ志モミガ紅葉ヒマナ隙ナ無アキキ秋アキノ山ヤマ。

是コトレ共トモニ其空ソノソラト山ヤマトノ形容ケイヨウヲ見ミシ、詞コトバナ

問

初編シヨヘンニ於オイテ事物コト、モノトノ形容ケイヨウヲ呼ヨブハ用言中ヨウゲンノウチノ  
 形状ケイジヤウ言ゲント為セリ然シカルニ接辞セツジニモ亦マタ形容ケイヨウヲ見ミ  
 ス者モノアリト為ナスカ

日本文法問答  
 三十

答

初編ニ於テ説タル形状言ハ轉變ノ活用アリ

リテ形容ノミヲ呼フ辞類ナリ接辞ノ如キ

ハ形容ヲ見スニ非ズ只其用法ニ因テ形容

辞ヲ兼テ體言ニ連続ルコトアリ因テ亦形容

詞ニモ變ルコトアルナリ

問

用法ノ變化ニ因テ事物ノ形容ヲ示ス者ハ

接辞ノミニ局ルカ

答

否。接辞ヲ以テ直ニ形容詞ト為スニ非ズ接

辞ハタゞ其接續ヲ為スノミニシテ形容ハ

他辞ニ在ル者ナリ故ニ體言ノ形容スル者

アリ作用言ノ形容スル者アリ大凡形容ト

ハ其事物ノ形状容様ニシテ形容詞ハ之ヲ

呼ブ所ノ詞ナリ

體言ノ形容スル例ハ如何

四種ノ體言ノ形容スル例ハ左ノ如シ

花の都

月の夜

問

日本文法問答

三十一



二編  
日本文法問答  
三三

左ノ如シ

醉エヒたる人ヒト

來キつる人ヒト

養カヒぬる大イヌ

飼カひ志ト鳥トリ

讀ヨミける書シヨ

直スグなる竹クケ

見ミざる男ヲコ

今來ん年

往ユクべき家イヘ

晴ハれぬ空ソラ

乘ノリたる車クルマ

往イニつる客キヤク

過スギぬる人ヒト

放ハチち志ウラ魚ウヲ

習ナラヒける字モジ

家イヘなる母ハハ

知シラざる女メデ

今散ん花

訪トッべき人ヒト

曇クモらぬ月ツキ

ニホンゴノハフモンダフ  
日本文法問答二編 終

二編  
日本文法問答  
三三



三編 目次

第五回

言語論ノ下

遺辞ノ不規則

自他ヲ轉倒スル例

上二段ノ活用

上二段活辞ノ變

下二段ノ活用

日本文法問答目次

三編  
日本文法問答  
三十一

下二段活辞ノ変シモニダシノハタラキトバカハリ

四段ニ働ク辞類ヨダシニハタラクコトバ

上一段ニ働ク辞類カミイチダシニハタラクコトバ

下一段ニ働ク辞類シモイチダシニハタラクコトバ

上二段ニ働ク辞類カミニダシニハタラクコトバ

下二段ニ働ク辞類シモニダシニハタラクコトバ

変格ニ働ク辞類ヘンカクニハタラクコトバ

單辞ニ働ク辞類タンジニハタラクコトバ

複辞ニ働ク辞類フツジニハタラクコトバ

作用言ノ格サヨウゲンノカク

形状言ノ格ケイジウゲンノカク

将然格ノ例キウゼンカクノレイ

連用格ノ例レンヨウカクノレイ

假體格ノ例カタイノカクノレイ

截断格ノ例セツタンノカクノレイ

連體格ノ例レンタイノカクノレイ

三編  
日本文法問答目次

三編  
日本文法問答目次

已然格ノ例

活辞ノ時

時刻ヲ誤ル例

時刻ノ照應

時刻ノ用法

豊後 物集 高見 著

第五回 言語論ノ下

體言用言接辞ノ三品種ノ性質及ビ其用法

ハ前編ニ於テ略之ヲ了解セリ然レモ未ダ

三品辞ノ性質ト用法トニ通ズルヲ以テ自

他ノ別ヲ失ハズ時刻ノ差ヲ誤ラザルニ至

ルベキヤ否ヤヲ識ラズ尚ホ詳ニ其義ヲ解

日本文法問答

説セヨ 自他及ビ時刻ノ談ハ  
初編ノ總論ニ出ツ

答 三品辞ノ性質ト用法トニ明晰ナルキハ自

他或ハ時刻等ヲ誤ラザルニ至ルベキハ疑

フ可ラズ然レモ其誤ラザルヲ知ルニ至ル

ハ誤ル者ヲ知リテノ後ニ在リ

誤ル者ヲ知ルト云フハ如何

誤ル者ヲ知ルトハ我々ガ平生ニ用フル所

ノ不正ナル言語不規則ナル習慣法ヲ不正

問 ナリト知リ不規則ナリト識ルヲ云フ  
我々ガ平生ニ用フル言語ニ於テ正シカラ

ザル所ハ如何

答 我々ガ平生ノ遣辞ニ於テ正シカラザル者

ハ數多アリト雖モ今先ツ其要タル所ヲ撮

ミテ試ニ之ヲ左ニ示スベシ

吾人ノ平生ノ遣辞ニテハ敵を退くるヲ

退けるト呼ビ盃を傾くるヲ傾けるト呼

日本文法問答

間を隔つるヲ呼ビ樓を建つ

るヲ建てるト呼ビリヲ注クベシをハ初

編ニモ大允言語ニハ我為ス作業ヲ呼ブ

ト他ノ為ス作業ヲ呼ブトノ差別アリテ

是レヲ自他ノ別ト云フ而シテ退くる傾く

る隔つる建つるハ我が為ス作業ニテ是

ヲ能動活辞ト云フハ能動活辞ノ解故ニ此

四辞ニハ左ノ如クをト云フ辞ヲ其上ニ

領ク一ヲ得

我レ彼敵を退くるに此策を用ふ

我レ彼盃を傾くるに此術を用ふ

我レ彼間を隔つるに此幕を用ふ

我レ彼樓を建つるに此材を用ふ

然ルニ此退くる傾くる隔つる建つるト

云フ能動活辞ヲ以テ退ける傾ける隔て

る建てるト云フ自動活辞ニ呼ビ做ス所

三編 日本文法問答

ハ則チ自他ノ差別ヲ誤リ彼我ノ義ヲ轉

倒スル者ナリ如何トナレバ退ける傾け

る隔てる建てるハ他ノ自ラ為ス作業ニ

テ我が自ラ為ス作業ニハ非ザルヲ以テ

ナリ故ニ此四辞ニハ左ノ如クノ文字

ニ意ヲ注クベシノハ初ト云フ辞ヲ其上

ニ編ニ舉タルガニ同ジニ領クテ得

彼の敵の退けるは此策に因れり

彼の盃の傾けるは此人に因れり

彼の間の隔てるは此幕に因れり

彼の樓の建てるは此材に因れり

斯ノ如ク我が為ス作業ヲ呼ブ辞ノ知ラ

ズ識ラス他ノ為ス作業ヲ呼ブ辞ニ変ズ

ル片ハ我が撃ツハ他ノ撃ツニ変ジ我が

聞クハ他ノ聞クニ変ジ我が樂ムハ他ノ

樂ムニ変ジ我が好ムハ他ノ好ムニモ変

三 編 臣 亦 文 法 問 答

ズベシ此例ヲ以テ推スキハ一言ノ下ニ

於テ我が所有物ノ他ノ所有物ト変化シ

去ルモ亦決シテ之レ無シト為ス一能ハ

ザルベシ言語ノ學豈夫レ之ヲ輕視スル

ヲ得ベケンヤ

問 我々が平生ノ遣辞ニ於テ自他等ノ錯誤ハ

三品辞ノ中大抵何種ノ辞類ニ多シト為ス

答 三品辞ノ中用言ト接辞トニ在リ而シテ用言

ニ在ル者常ニ甚シトス

問 用言ノ中ニ於テハ作用言ニ多キカ形状言

ニ多キカ

答 用言ノ中作用言ニ多シ

作用言ハ六條ニ出ツ皆誤ルカ

問 作用言ノ中誤ル者アリ誤ラザル者アリ四

條上ニ五條下ニ活辞ノ如キハ總テ誤レ

リトス

問 四條五條ハ何ノ法ヲ誤ルカ

答 四條五條ハ共ニ其活辞ノ轉變ノ法ヲ誤ル

問 四條五條ノ活辞ノ誤レル轉變ハ如何

答 四條五條ノ中先ヅ四條ノ活辞ヨリ示スベ

シ然レ氏其誤レル者ノミヲ擧ゲテ誤ラザ

ル者ヲ擧ゲザルキハ一目瞭然ナラズ故ニ

正シキ者ト正シカラザル者トヲ併セテ之

ヲ左ニ掲グ

作用言第四條即チ上二段活辞ノ轉變

起 おき おく おくる おくれ

落 おち おつ おつれ

媚 こび こぶ こぶれ

恨 うらみ うらむ うらむれ

報 むくひ むくゆ むくゆれ

懲 こり こる こるる こるれ

三編 日本文法問答



三編  
時文活問答

此活辞ヲ吾人が平生ノ遺辞ニテハ左ノ  
如ク第二條上ノ轉ジニ変ゼリ

起 おき おき おき

落 おち おち おち

媚 こび こび こび

恨 うらみ うらみ うらみ

報 むくい むくい むくい

懲 こり こり こり

問

五條ノ活辞ノ誤レル轉変ヲ擧ゲヨ

五條ノ活辞モ四條ノ例ニ倣テ其誤ラザル

者ト誤レル者トヲ併セテ左ニ之ヲ掲グ

作用言第五條即チ下二段活辞ノ轉変

得 えん う りる うれ

受 うけん うく うくる うくれ

失 うせん うち うちる うちれ

捨 きてん ちつ ちつる ちつれ

三編  
時文活問答

尋 たづね たづね たづね たづね

與 あたへ あたふ あたふる あたふれ

譽 ほめ ほむ ほむる ほむれ

燃 もじ もゆ もゆる もゆれ

破 やぶれ やぶる やぶるる やぶるれ

植 うゑ う字 う字る う字れ

此活辞ヲ吾人が平生ノ遺辞ニテハ左ノ  
如ク第三條ノ轉ジニ変ゼリ

得 え える えれ

受 うけ うける うけれ

失 うせ うせる うせれ

捨 ちて ちてる ちてれ

尋 たづね たづねる たづねれ

與 あたへ あたふ あたふれ

譽 ほめ ほめる ほめれ

燃 もじ もじる もじれ

破 やぶれん やぶれる やぶれ

植 うゑん うゑる うゑれ

問 四條五條ノ活辞ハ此所ニ舉タル起<sub>レ</sub>落<sub>ル</sub>ヲ

得受<sub>ク</sub>ノ類ノニ轉<sub>リ</sub>變<sub>ル</sub>ヲ誤<sub>レ</sub>ルナルカ

答 否。此所ニ舉タル者ハ其條々ノ一例ニシテ

四條五條ノ活辞ハ總テ此例ノ如ク誤<sub>レ</sub>ル

者ナリ  
大九四條ノ活辞ハ其數幾許アリヤ

答 余ガ纂<sub>ニ</sub>著<sub>シ</sub>ノ日<sub>ニ</sub>本<sub>辞</sub>典<sub>ニ</sub>據<sub>テ</sub>概<sub>算</sub>スレ

ハ四條五條ノ活辞ノ如キハ一千ノ上ニ出

デズ

問 第一條即チ四段ヨリ第五條即チ下二段ニ

至ルマデノ段々ニ活用スル辞類ヲ舉<sub>ゲ</sub>ヨ

答 四段ヨリ下二段ニ至ル迄ノ活辞ハ大數ニ

シテ一々ニ舉<sub>ル</sub>テ能<sub>ハ</sub>ズ故<sub>ニ</sub>今<sub>ハ</sub>只<sub>其</sub>二

三ノ例ヲ示<sub>ス</sub>ベシ  
用言即チ作用形状ノ活辞ハ余纂ニ日本小辞典

著シテ盡ク纂集  
セリ就テ見ルベシ

四段ニ活用スル辞

懲 <small>コシ</small> む	押 <small>オ</small> む	解 <small>ト</small> く	吹 <small>フ</small> く	嘶 <small>イナ</small> く	飽 <small>ア</small> く
示 <small>シ</small> む	現 <small>ス</small> む	泣 <small>ナ</small> く	開 <small>ヒラ</small> く	動 <small>ウ</small> く	欺 <small>アソ</small> く
糺 <small>タ</small> む	威 <small>オト</small> む	抜 <small>ヌ</small> く	退 <small>シリツ</small> く	驚 <small>オドロ</small> く	仰 <small>ア</small> ぐ
倒 <small>タ</small> む	眨 <small>オト</small> む	焚 <small>ヤ</small> く	歎 <small>ナ</small> ぐ	傾 <small>タ</small> く	行 <small>ユ</small> く
費 <small>ツヒ</small> む	犯 <small>マ</small> む		磨 <small>ヒ</small> く	聞 <small>キ</small> く	抱 <small>イ</small> く

及 <small>オヨ</small> ぶ	歌 <small>ウタ</small> ふ	逢 <small>ア</small> ふ	勝 <small>カ</small> つ	保 <small>タモ</small> つ	擊 <small>ウ</small> つ	申 <small>モウ</small> む	隠 <small>カ</small> む
買 <small>カ</small> ふ	浮 <small>ウカ</small> ぶ	遊 <small>アソ</small> ぶ	分 <small>ワカ</small> つ	放 <small>ハナ</small> つ	穿 <small>ウガ</small> つ	漏 <small>モロ</small> む	明 <small>ア</small> む
競 <small>キ</small> ふ	追 <small>オ</small> ふ	洗 <small>アラ</small> ふ	満 <small>ミ</small> つ	待 <small>マ</small> つ	育 <small>ソダ</small> つ	催 <small>モウ</small> む	暮 <small>ク</small> む
食 <small>クラ</small> ふ	思 <small>オモ</small> ふ	争 <small>ア</small> ふ	毀 <small>コボ</small> つ	持 <small>モ</small> つ	立 <small>タ</small> つ	許 <small>ユル</small> む	燻 <small>ウム</small> む
隨 <small>ヒ</small> ふ	籠 <small>オソ</small> ふ	誘 <small>イガ</small> ふ		過 <small>アヤ</small> つ	裁 <small>タ</small> つ		渡 <small>ワタ</small> む

三編  
日本文法問答

三編  
日本文法問答  
十一

艘 <sup>キ</sup> る	射 <sup>イ</sup> る	見 <sup>ミ</sup> る	干 <sup>ヒ</sup> る	似 <sup>ニ</sup> る	着 <sup>キ</sup> る	上 <sup>カミ</sup> 一段 <sup>イナダン</sup> 二 活用 <sup>タラソク</sup> スル 辞 <sup>コトバ</sup>	契 <sup>キ</sup> る
居 <sup>キ</sup> る	鑄 <sup>イ</sup> る		煎 <sup>ヒ</sup> る	煮 <sup>ニ</sup> る		積 <sup>ツキ</sup> る	
率 <sup>キ</sup> る	沃 <sup>イ</sup> る		放 <sup>ヒ</sup> る			走 <sup>ハシ</sup> る	
斷 <sup>キ</sup> る						綴 <sup>ツグ</sup> る	

馨 <sup>カフ</sup> る	送 <sup>オウ</sup> る	曇 <sup>クモ</sup> る	凋 <sup>ネ</sup> む	飲 <sup>イン</sup> む	羨 <sup>ウヤ</sup> む	讀 <sup>ヨク</sup> む	救 <sup>スク</sup> ふ
降 <sup>フ</sup> る	驕 <sup>ウツク</sup> る	餘 <sup>アハ</sup> る	巧 <sup>タカ</sup> む	臨 <sup>ゲ</sup> む	頼 <sup>タシ</sup> む	住 <sup>ス</sup> む	違 <sup>タガ</sup> ふ
加 <sup>カ</sup> る	限 <sup>カヘ</sup> る	怒 <sup>イカ</sup> る	進 <sup>ス</sup> む	勵 <sup>ゲ</sup> む	樂 <sup>タシシ</sup> む	圍 <sup>カコ</sup> む	習 <sup>ナラ</sup> ふ
昇 <sup>ノボ</sup> る	止 <sup>トドマ</sup> る	憤 <sup>イカホ</sup> る	色 <sup>ツク</sup> む	含 <sup>フク</sup> む	慎 <sup>ツシ</sup> む	汲 <sup>ヒク</sup> む	拂 <sup>ハラ</sup> ふ
散 <sup>チ</sup> る	語 <sup>カタ</sup> る	偽 <sup>イツホ</sup> る		休 <sup>ヤス</sup> む	憎 <sup>ニク</sup> む	好 <sup>ヨク</sup> む	

三編  
日本文法問答  
十三

下二段ニ活用スル辞

蹴る

罅る

綜る

上二段ニ活用スル辞

起る

落つ

強ふ

恨む

奮る

下二段ニ活用スル辞

得る

受く

告ぐ

承く

下二段ニ活用スル辞

戀ふ

閉づ

盡く

過ぐ

耻づ

忍ぶ

試む

悔ゆ

懲る

報ゆ

上二段ニ活用スル辞

避く

懼づ

媚ぶ

攀づ

亡ぶ

下二段ニ活用スル辞

助く

平ぐ

負く

妨ぐ

提ぐ

曲ぐ

下ぐ

焦ぐ

遂ぐ

預く

曲ぐ

下ぐ

提ぐ

平ぐ

負く

助く

平ぐ

負く

助く

平ぐ

負く

助く

平ぐ

負く

三編  
日本文法問答  
十一

崩 <small>ク</small> ゆ	絶 <small>タ</small> ゆ	榮 <small>サカ</small> ゆ	治 <small>ツ</small> む	定 <small>サマ</small> む	褒 <small>ホ</small> む	唱 <small>ナ</small> ふ	答 <small>コタ</small> ふ
見 <small>ミ</small> ゆ	燃 <small>モ</small> ゆ	滅 <small>キ</small> ゆ	集 <small>アツ</small> む	認 <small>シタ</small> む	改 <small>アラタ</small> む	捉 <small>トラ</small> ふ	調 <small>ツ</small> ふ
茁 <small>ハ</small> ゆ	吠 <small>ホ</small> ゆ	覺 <small>オホ</small> ゆ	嘗 <small>ナ</small> む	勉 <small>ム</small> む	諫 <small>イハ</small> む	存 <small>ナ</small> ふ	蓄 <small>タマ</small> ふ
萎 <small>ナ</small> ゆ	涸 <small>サ</small> ゆ	越 <small>コ</small> ゆ	極 <small>ト</small> む	攻 <small>セ</small> む	固 <small>カタ</small> む	並 <small>ナ</small> ふ	仕 <small>シ</small> ふ
	瘠 <small>ツ</small> ゆ	聳 <small>ヒ</small> ゆ		咎 <small>トガ</small> む	醒 <small>サ</small> む		教 <small>ツ</small> ふ

三編  
日本文法問答  
十二

辨 <small>ワキマ</small> ふ	洩 <small>コ</small> ぬ	重 <small>カサ</small> ぬ	雜 <small>カ</small> つ	捨 <small>ス</small> つ	咽 <small>ム</small> む	瘦 <small>ヤ</small> む	着 <small>ス</small> る
考 <small>カガ</small> ふ	縮 <small>ツ</small> ぬ	束 <small>ツ</small> ぬ	茹 <small>ユ</small> づ	企 <small>シ</small> つ	拌 <small>マ</small> む	失 <small>ウ</small> む	擲 <small>ヒ</small> る
堪 <small>タ</small> ふ	駢 <small>ハ</small> ぬ	尋 <small>シ</small> ぬ	撫 <small>ナ</small> づ	隔 <small>ヘ</small> つ	胸 <small>ム</small> む	載 <small>ノ</small> む	授 <small>サツ</small> く
與 <small>アタ</small> ふ	連 <small>ツ</small> ぬ	兼 <small>カ</small> ぬ		秀 <small>ヒ</small> づ		馳 <small>ハ</small> む	
加 <small>ク</small> ふ		委 <small>ユ</small> ぬ		出 <small>イ</small> づ		任 <small>マ</small> む	

三編 日本文法問答

問

而<sup>シカド</sup>此<sup>コノ</sup>四<sup>ヨウ</sup>段<sup>ダン</sup>ヨリ変<sup>カ</sup>格<sup>カク</sup>=至<sup>イ</sup>ル迄<sup>マデ</sup>六<sup>ロク</sup>條<sup>ジョウ</sup>=舉<sup>アゲ</sup>

タル辞<sup>ジ</sup>ハ次<sup>ツギ</sup>編<sup>ヘン</sup>=於<sup>オ</sup>テ種<sup>シユ</sup>々<sup>ト</sup>ノ歌<sup>ウタ</sup>文<sup>ブン</sup>=綴<sup>ツ</sup>リ出<sup>イ</sup>ス

ス<sup>ト</sup>アルヲ以<sup>モツ</sup>テ其<sup>ソノ</sup>辞<sup>ジ</sup>ハ幾<sup>イク</sup>條<sup>ジョウ</sup>何<sup>ナニ</sup>段<sup>ダン</sup>ノ活<sup>ハク</sup>辞<sup>ジ</sup>ナ

リト云<sup>イ</sup>フ<sup>ヲ</sup>心<sup>ココロ</sup>=記<sup>シ</sup>テ忘<sup>ワス</sup>ル<sup>ハ</sup>勿<sup>ナカ</sup>レ

次<sup>ツギ</sup>編<sup>ヘン</sup>=於<sup>オ</sup>テ綴<sup>ツ</sup>リ出<sup>イ</sup>ス歌<sup>ウタ</sup>文<sup>ブン</sup>=形<sup>ケイ</sup>状<sup>ジョウ</sup>言<sup>ゲン</sup>ハ用<sup>モチ</sup>フ

答

問

第六<sup>ダイロク</sup>條<sup>ジョウ</sup>即<sup>スナハチ</sup>チ作<sup>サ</sup>用<sup>ヨウ</sup>變<sup>ヘン</sup>格<sup>カク</sup>=活<sup>クワク</sup>用<sup>ヨウ</sup>スル<sup>ハ</sup>左<sup>サ</sup>ノ如<sup>ゴト</sup>シ

何<sup>ナニ</sup>カニ

來<sup>キ</sup>為<sup>ス</sup>

往<sup>イ</sup>ぬ死<sup>シ</sup>ぬ

有<sup>ア</sup>る居<sup>イ</sup>る

飢<sup>ウ</sup>う植<sup>ウ</sup>う居<sup>ス</sup>う蹴<sup>ク</sup>う

破<sup>ヤ</sup>る塗<sup>マ</sup>る濡<sup>ヌ</sup>る免<sup>メ</sup>る

疲<sup>ツカ</sup>る崩<sup>クダ</sup>る晴<sup>ハ</sup>る觸<sup>フ</sup>る漏<sup>モ</sup>る

汚<sup>ケガ</sup>る尖<sup>トガ</sup>る廢<sup>スダ</sup>る戲<sup>タシ</sup>る流<sup>ナガ</sup>る

溢<sup>ア</sup>る怖<sup>オホ</sup>る溺<sup>オホ</sup>る暮<sup>ク</sup>る枯<sup>カ</sup>る

第六<sup>ダイロク</sup>條<sup>ジョウ</sup>即<sup>スナハチ</sup>チ作<sup>サ</sup>用<sup>ヨウ</sup>變<sup>ヘン</sup>格<sup>カク</sup>=活<sup>クワク</sup>用<sup>ヨウ</sup>スル<sup>ハ</sup>左<sup>サ</sup>ノ如<sup>ゴト</sup>シ

何<sup>ナニ</sup>カニ

來<sup>キ</sup>為<sup>ス</sup>

往<sup>イ</sup>ぬ死<sup>シ</sup>ぬ

有<sup>ア</sup>る居<sup>イ</sup>る

飢<sup>ウ</sup>う植<sup>ウ</sup>う居<sup>ス</sup>う蹴<sup>ク</sup>う

破<sup>ヤ</sup>る塗<sup>マ</sup>る濡<sup>ヌ</sup>る免<sup>メ</sup>る

疲<sup>ツカ</sup>る崩<sup>クダ</sup>る晴<sup>ハ</sup>る觸<sup>フ</sup>る漏<sup>モ</sup>る

汚<sup>ケガ</sup>る尖<sup>トガ</sup>る廢<sup>スダ</sup>る戲<sup>タシ</sup>る流<sup>ナガ</sup>る

溢<sup>ア</sup>る怖<sup>オホ</sup>る溺<sup>オホ</sup>る暮<sup>ク</sup>る枯<sup>カ</sup>る

三編 日本文法問答



ル下無キヤ

形状言ヲ用フルアリ

次編ニ形状言ヲ用ヒバ預<sup>アズレ</sup>其一條<sup>ソノイッテウ</sup>單<sup>ダウ</sup>二<sup>ニ</sup>條<sup>ニ</sup>複<sup>フク</sup>辭<sup>ジ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>セ

一條<sup>イツ</sup>二<sup>ニ</sup>條<sup>ニ</sup>即<sup>ス</sup>チ單<sup>ダウ</sup>辭<sup>ジ</sup>複<sup>フク</sup>辭<sup>ジ</sup>ハ左ノ如<sup>ゴト</sup>シ

答

形状言第一條即チ單辭

- 寒<sup>サム</sup>志
- 青<sup>アヲ</sup>志
- 赤<sup>アカ</sup>志
- 白<sup>シロ</sup>志
- 黒<sup>クロ</sup>志
- 熱<sup>アツ</sup>志
- 辛<sup>カラ</sup>志
- 苦<sup>ニガ</sup>志
- 醋<sup>ク</sup>志

- 深<sup>フカ</sup>志
- 淺<sup>アサ</sup>志
- 厚<sup>アツク</sup>志
- 薄<sup>ウス</sup>志
- 長<sup>ナガ</sup>志

- 短<sup>ミジカ</sup>志
- 重<sup>オモ</sup>志
- 輕<sup>カろ</sup>志
- 遠<sup>トホ</sup>志
- 近<sup>チカ</sup>志

- 遲<sup>オソ</sup>志
- 速<sup>ハヤ</sup>志
- 狹<sup>セバ</sup>志
- 廣<sup>ヒロ</sup>志
- 高<sup>タカ</sup>志

- 低<sup>ヒサ</sup>志
- 易<sup>ヤス</sup>志
- 惡<sup>ニク</sup>志
- 敏<sup>ト</sup>志
- 鈍<sup>テ</sup>志

- 難<sup>カタ</sup>志
- 柔<sup>ヤウ</sup>志
- 危<sup>アヤフ</sup>志
- 荒<sup>アラ</sup>志

形状言第二條即チ複辭

- 樂<sup>タガ</sup>志
- 悲<sup>カナ</sup>志
- 怪<sup>アヤ</sup>志
- 怨<sup>ウラミ</sup>志
- 惜<sup>アハ</sup>志
- 寂<sup>サビ</sup>志
- 涼<sup>スミ</sup>志
- 正<sup>タダ</sup>志
- 委<sup>ツバ</sup>志
- 乏<sup>トボ</sup>志

久志 美志 均志 新志 卑志

睦志 親志 困志 病志 騷志

恋志 羞志 逞志 珍志 懷志

宜志 煩志 願志 欲志 紛志

貪志 空志 怕志 喧志

問 二編ニ於テ用言ニ格アリト言ヘリ用言一

答 然リ

問

作用言形状言ノ格ト云フハ如何

答 作用言形状言ノ格ハ其轉變ニ因テ或ハ續

キ或ハ断レ、等ノ格ヲ云フ

問 作用言形状言ノ續クト云フハ何ノ辞ニ續

クヲ云フカ

答 體言或ハ用言ニ續クモノヲ云フ

問 作用言形状言ハ此續クト断ル、トノ外尚

ホ多クノ格アリヤ

日本文法問答

答

此斷續ノ外ニ尚ホ三個ノ格アリ

問

三個ノ格ハ作用言形状言ニ於テ共ニ之レ

アリヤ

答

作用言ハ三個ノ格ヲ有チ形状言ハ其中一

個ノ格ヲ有テリ

問

作用言ノ有テル三個ノ格ハ何々ノ格ト為

スカ

答

作用言ノ有テル三個ノ格ハ一ツハ其作業

ノ令始ラントスル格一ツハ其作業ノ假ニ

體言ノ形ヲ成セル格一ツハ其作業ノ已ニ

卒レル格ヲ云フ

問

形状言ノ有テル一個ノ格ハ何ノ格ト為ス

カ

答

形状言ノ有テル一個ノ格ハ假ニ體言ノ形

ヲ成ス格ヲ云フ

問

作用言形状言ノ有ツ所ノ格ハ其名ヲ何々

答

ト命クルカ  
作用言形状言ノ有ツ所ノ格ノ名ハ左ノ如

四種ノ體言ニ續ク格ヲ

連體ト云フ

二種ノ用言ニ續ク格ヲ

連用ト云フ

續カズニテ断ル、格ヲ

截断ト云フ

作業ノ始トマル格ヲ

将然ト云フ

假體言形ヲ成ス格ヲ

假體ト云フ

作業ノ已ニ率レル格ヲ

已然ト云フ

問

此六個ノ格ノ順序ハ如何

答

六個ノ格ノ順序ハ左ニ舉ル如シ

第一 将然

第二 連用

第三 假體

第四 截断

第五 連體

第六 已然

問

此六個ノ格ノ作用言ニ見ル、例ヲ示セ

答

六個ノ格ノ作用言ニ見ル、例ハ左ノ如シ

三續  
日本文法  
格

第一 將然之格 其作業ノ今始

四段 驚カシ 今將ニ驚カントスルニハ非ズニテ

上二段 見シ 今將ニ見タルニハ非ズニテ

下一段 蹴シ 今將ニ蹴タルニハ非ズニテ

上二段 起キ 今將ニ起タルニハ非ズニテ

下二段 受けシ 今將ニ受タルニハ非ズニテ

變格 居ラシ 今將ニ居タルニハ非ズニテ

第二 連用之格 言ニ續ク形状

四段 驚キ騷シ 驚キト云フ作用言ニ續ケリ

四段 驚キ易志 驚キト云フ形状言ニ續ケリ

上二段 見止む 見ト云フ作用言ニ續ケリ

上二段 見苦志 見ト云フ形状言ニ續ケリ

下一段 蹴破る 蹴ト云フ作用言ニ續ケリ

下一段 蹴難志 蹴ト云フ形状言ニ續ケリ

上二段 起キ出づ 起キト云フ作用言ニ續ケリ

上二段 起キ難志 起キト云フ形状言ニ續ケリ

日本文法  
格

下二段 シモノニダン 受け取る

受けト云フ作用言ニ續ケル

下二段 シモノニダン 受け悪志

受けト云フ形状言ニ續ケル

変格 ヘシカタ 居り暮す

居リト云フ作用言ニ續ケル

変格 居り苦志

居リト云フ形状言ニ續ケル

第三 假體之格

假ニ體言ノ形ヲ成ス格

○左ノ如ク指示辭ノ具

ニ係レルハ己ニ體言ノ形ヲ具

四段 ヨダン 驚きにけり

本文典ニ詳

上二段 カニニダン 見にけり

下二段 シモノニダン 蹴にけり

上二段 カニニダン 起きにけり

下二段 シモノニダン 受けにけり

変格 ヘシカタ 居りにけり

第四 截断之格 セツダンノカク 其作業ノ續カズ

四段 ヨダン 驚く

四段活辭ハ第三ノ轉ジ

上二段 カニニダン 見る

上二段活辭ハ総テ有ツ

三編 日本文法問答

下一段 蹴る  
下一段活辞ノ同シ

上二段 起く

下二段 受く

変格 居る

第五 連體之格  
變格ノ居るハ截斷  
ト連體ノ格ヲ有ツ

四段 驚く馬

上二段 見る我

下二段 蹴る鞠

起くる時  
起くるト云フ  
虚體言ニヨリ時

下二段 受くる教

受くるト云フ  
假體言ニヨリ教

居る人  
居るト云フ  
假體言ニヨリ人

第六 已然之格  
其作業ノ已ニ  
續ケリ

も一種接辞ノ如ク  
係レルハ其

作業ノ已ニ卒業  
係レルハ其

ホニ編及ビ小學日  
本文典ヲ合セ見

四段 驚け  
驚けども

上二段 見れば  
見ればども

三編  
日本文法  
月令  
三

下二段 蹴ればども

上二段 起くればども

下二段 受くればども

変格 居ればども

問 形状言ノ有テル 断續等ノ格ノ數ハ幾個ア

リヤ

答 形状言ノ有テル 断續等ノ格ハ四個トス

問 形状言ノ有テル 格ハ何ト何トナルカ

答 形状言ノ有テル 格ハ左ノ如シ

第一 連用 第二 假體

第三 截断 第四 連體

問 此四個ノ格ノ形状言ニ見ル、例ヲ示セ

答 四個ノ格ノ形状言ニ見ル、例ハ左ノ如シ

第一 連用之格 作用言形状

單辭 早く進む

單辭 早く熱志



複辞 フクジ 久く學ぶ キウクマナブ  
ト云フ作用言ニ續ケリ

複辞 フクジ 久く騒志 キウクサウシ  
ト云フ形状言ニ續ケリ

第二 ダイニ 假體之格 カクタイノカク  
○左ノ如ク指示辞ノ格

ニ係ルハ已ニ體ノ形ヲ具ヘタルヲ以テナリ尚ホ初學日本

ニ文典ニ詳ニ説ケリ

單辞 タンジ 早さに後る ハヤサニオク

單辞 タンジ 早げに思ふ ハヤゲニオモ

複辞 フクジ 久さに堪へぬ キウサニタマヘヌ

複辞 フクジ 久げに見ゆ キウゲニミユ

形状言ハ單辞複辞共ニ其第一ノ轉ジ

ノさ志ノサシト第五ノ轉ジダイゴノげ志ノゲシニ假

體ノ格ヲ有テリ尚ホ其第二第三ノ轉

ジニモ有テレモ其ハ初學日本文典ニ

説ケルヲ見ルベシ初編ノ用言ノ條ニ

見合ス

第三 ダイサン 截断之格 セツダンノカク  
斷ル格

三編 日本文法問答

單辭 早志

複辭 久志

第四 連體之格 體言ニ 續ク格

單辭 早き馬

複辭 久き友

問 此作用言形状言ノ格ヲ我々ガ平生ノ遣辭

ニ於テ誤ルコトアリヤ

答 誤ルコトアリ

問 此格ヲ誤ルルハ其遣辭ニ於テ不都合アリ

ヤ

答 不都合アリ第一ニハ格ヲ誤レル言語ハ言

語ノ體ヲ失フ故ニ聞ク者ノ推量ヲ借ラザ

レハ其談ル人ノ思想ハ全ク通ゼザルナリ

譬ヘバ車ニ載スル物又ハ人ヲ吠ユル犬ヲ

見テ (彼の車に載セ物) (彼の人を吠ユ

犬) ト云フハ載ス吠ユト云フ詞ハ下ニ

二編 日本文法問答

段ノ截斷ナレバ切レテ物ト犬トニ連續ガ

ルヲ聞ク人之ヲ聞キ咎メザルハ言フ者ノ

意ヲ考へ前後ノ詞ヲ察シテ(載ス物)ハ

載スル物(吠ゆ犬)ハ吠ユル犬ト云フ意

ナラント推量シテ聞キ做セバナリ然レ氏

我が意想ヲ言ヒ出ス大切ナル言語ヲ以テ

他人ノ推量ニ任セ置クハ亦甚ダ危険ク且

ツ大不都合ノ至リナラズヤ

問答

此載ス吠ユト云フ辞ハ作用言ナラズヤ  
然リ前ニ出シ、作用言下二段ノ中ノ辞ナ

問

我々カ平生ノ遺辞ニ於テ形状言ノ格ニ誤  
ル者ヲ示セ

答

形状言ノ格ヲ誤ル者ハ例ヘバ左ノ文章ノ  
如シ

此塾に通學する童子は勉強をべし事

邦語を學ぶは属辞を第一とせむべし事

志ト云フ辞ハ接辞ニ收メタレモトケイ

状單辞ノ変格ニテ形状言ノ変格ハ小見ユベク

ト云フキハ連用ノ格トナレバ用言ノ外ニ

ハ續カズ然ルラ事ト云フ體言ニ係ケテベ

ク事ト用ヒタルハ甚シキ誤リナリ若シ體

言ニ續ケント欲セバ其連體ノ格ヲ用ヒテ

ベキ事ト云ハザル可ラズ前ニ舉タル連用

答 尚ホ此類ノ誤リハ曩ニ余ガ著シ、説

問 話ノ心得ト云フ書ニ多ク載セタリ

我々が平生ノ遣辞ノ間違ハ大抵作用言形

答 状言ノ格ヲ誤ルヨリ生ズルカ

作用言形状言ノ格ヲ誤ルノミナラズ言語

ノ時ノ違フヨリ起ル

問 言語ノ時ト云フハ如何

答 言語ノ時トハ説話ニ罹ル萬ノ作業ノ時刻

ヲ云フ

問 說話ニ罹ル作業ノ時刻ト云フハ如何

答 說話ニ罹ル時刻ト云フハ說話ニ罹ル事ノ

同時又ハ其前後ニ在ル

者ヲ云フ

問 此時刻ノ數ハ幾個アリヤ

答 時刻ノ數ハ普通ニ三個トス然レ氏細ニ數

問答

先ツ三個ノ時ノ名ヲ聞ク

答 三個ノ時ハ一ツヲ現在ト云ヒ一ツヲ過去

ト云ヒ一ツヲ未來ト云フ

問 現在ト云フハ如何

答 現在ト云フハ現在ト云フハ如何

同ジ時間ニ在リテ過不及ナキヲ云フ例ハ

讀ムト云フ作業ナレバ

讀む 讀むなり 讀むなる

右ノ如ク云フハ讀ム作業ハ今眼前ニ在

ル者ナリ

過去ト云フハ如何

問 答

過去トハ説話ニ罹ル事説話ヲ為ス時ニハ

己ニ過ギ去リタルヲ云フ例ハ讀ムト云

フ作業ナレハ

讀みき

讀みぬ

讀みの

讀みけり

讀みたり

讀めり

右ノ如ク云フハ讀ム作業ハ己ニ疾ク畢

レル者ナリ

未來ト云フハ如何

問 答

未來トハ説話ニ罹ル事ノ説話ヲ為ス時ニ

ハ未來ラザルヲ云フ例ハ讀ムト云フ

作業ナレハ

讀まん

讀まま志

右ノ如ク云フハ讀ム作業ハ未來ラザ

ル者ナリ

問 此三個ノ時ハ如何ニシテ為スカ  
答 現在時ヲ為スニハ 現在辞ヲ附ケ 過去時ヲ

為スニハ 過去辞ヲ附ケ 未來時ヲ為スニハ  
將來辞ヲ附ク 現在辞過去辞等ノ

問 此三個ノ時ヲ細ニ數フルキハ五個ニ分ル  
答 ト云フハ如何

問 三個ノ時ハ普通ノ時ニテ之ヲ細分スルキ  
答 ハ 過去ニ大過去ト 想像過去ト 見スベシ

問 大過去ト云フハ如何  
答 大過去トハ 過去辞ノ複リタルヲ云フ例ヘ

人ノ書ヲ讀タルヲ見ツトテ 彼の人は

書ヲ讀みたりき ト云フガ如ク讀ミタル

事ノ已ニ過去ナル上ニ又見ツル事ノ過去

讀みたりき 讀みたりぬ

日本文法問答

讀みにけり

讀みたりけり

讀みたりつ

讀みたり志か

問

想像過去ト云フハ如何

答

想像過去トハ過去辞ニ想像辞ノ複リタル

フ云フ例ヘバ彼ノ人ハ己ニ彼書ヲ讀ミタ

ラント思ヒテ(彼ノ人は彼の書ヲ讀ミつら

人)ト云フガ如ク其讀ム作業ノ今ハ己ニ

過去ニ属タラント思ヒ遣ルヲ云フ尚ホ其

例ヲ掲ゲバ

讀みぬらん

讀みぬらぬ

讀みつらん

讀みつらぬ

讀みぬら志

讀みぬらぬ

讀みつら志

讀みつらぬ

問

現在過去未来ノ三時ヲ為スニハ各其接辞

ヲ附ケザレバ為スヲ能ハザルカ

答

三時ヲ為スニ現在辞過去辞未来辞等ノ接



辞ヲ附ケズシテモ其活辞ノ轉變ノ格ニ因

テ為ス一アリ然レモ轉變ノ格ノ時ハ截断

格ノ外ニハ多クハ全カラザルナリ例ヘバ

讀ムト云フ四段活辞ニテ云ハ左ノ如シ

現在時 讀む 截断格

過去時 讀め 已然格

未来時 讀ま 将然格

問 我々が平生ノ遣辞ニ於テ此等ノ時ヲ違フ

ル一アリヤ

答 然リ然ルユエニ種々ノ間違ヲ引キ起スナ

リ

問 此時ヲ違フトハ如何ニ違フルヲ云フカ

答 時ヲ違フトハ例ハ未来ニ云フベキヲ現

在或ハ過去等ニ言ヒ做ス類ナリ

問 未来ニ云フベキヲ現在ニ言ヒ做スト云フ

ハ如何ナル例アリヤ

答 未来ニ云フベキヲ現在ニ言ヒ做ストハ例

ヘバ此書ハ明日讀ント云フベキヲ (此書

は明日讀む) ト云フガ如シ明日トハ未ダ

来ラザル時ナリ讀ムトハ今眼前ニ讀ムナ

リ未ダ来ラザル時ノ作業ヲ今眼前ニ為ス

如ク言ヒナスキハ未ダ習ハザルモ今習フ

ニナリ未ダ學バザルモ今學ブニナリ未ダ

受ケザル教モ今受クル教ニナリ未ダ與ヘ

問 ザル物モ今與フル如クナルナリ  
未来ニ云フベキヲ過去ニ言ヒ做スト云フ

ハ如何ナル例アリヤ

答 未来ニ云フベキヲ過去ニ言ヒ做ストハ例

ヘバ此習字本ハ来月習ント云フベキヲ

此習字本は来月習へり) ト云フガ如シ来

月トハ未ダ来ラザル月ナリ習へリトハ疾

ク已ニ習ヒシナリ未ダ来ラザル月ノ作業

ヲ已ニ為シテ過シ如ク言ヒ做スキハ未ダ

飲ザル酒ニ已ニ酔リト云ヒ未ダ食ザル食

ニ已ニ飽ケリト云フガ如シ此例ヲ以テ推

ス成ハ未ダ請取ラザル金圓モ已ニ請取リ

シ如クナルナリ實ニ怖ルベキニアラズヤ

問 我々が斯クノ如ク時ヲ誤ルハ口語ノミニ

在ルカ

答 口語ニモアリ又筆語ニモアリ

問 我々が平生ノ筆語ニ於テ未来ニ書クベキ

ヲ過去ニ書キ誤ル者ハ如何ナル例アリヤ

答 我々が平生ノ筆語ニ於テ未来ニ書クベキ

ヲ過去ニ書キ誤ル者ハ大抵左ノ如キ類ナ

リ

御約束の習字本は明日請取り申候

御約束の使者は後刻此より差出候

斯ノ如ク書クハ我々が平生ノ習慣ナレ氏

未ダ請取ラザル物未ダ差出サハル者ヲ此  
記法ニ因ルハ已ニ請取リ又差出シ、譯

ニナルナリ

問

斯ノ如キ文章ニテモ明日或ハ後刻ノ文字

上ニアルハ未ダ其事ヲ為サハルニナル

ベシ然ルヲ已ニ為シタル譯ニナルト云フ

ハ如何ナル理由アリヤ

答

假令上ニ明日後刻等ノ文字アリ決シテ

頼ミト為スノ能ハザルナリ如何トナレバ

本ヨリ記法ハ請取ルベキ約束ト請取シ證

書トニ兼涉シタル者ナレバ明日ト後刻ト

ハ未ダ来ラザル時ナレバ此書文ヲ遣シ後

數日ヲ經テ之ヲ言フハ書文ヲ遣シ、明

日或ハ後刻ニ於テ已ニ約束ノ通り其事ハ

履行ヘル者ト見ルヲ得ベシ

問

然ルハ斯ノ如キ時ノ記法ハ如何ニ為ス

ベキカ

答 斯ノ如キ時ノ記法ハ即チ時刻ニ應ジテ明

瞭ニ書クナリ

問 時刻ニ應ジテ明瞭ニ書クトハ如何ニ為ス

答 時刻ニ應ズトハ例ヘバ上文現在ナレバ下

文モ現在ニ書キ上文過去ナレバ下文モ過去ニ書キ

問 然ルキハ前文ノ如キハ如何ニ書クカ

答 前文ノ如キハ上文ノ明日或ハ後刻等ノ文

字未来ナレバ下文ノ請取ル差出スト云フ

問 如キモ未来ニ書クナリ

答 前文ヲ未来ニ書ケル例ヲ示セ

前文ヲ未来ニ書ケルハ左ノ如シ

御約束の習字本は明日請取り可申候

三編 日本文法問答 三二五

御約束の使者は後刺此より可差出候

問 前ノ如キ文ニ於テ若シ上文過去ナルハ

如何ニ書クカ

答 前文ニ於テ若シ上ニ昨日先刺等ノ過去ノ

文字アルハ下ニモ亦過去ノ文字ヲ用ヒ

テ之ニ應ズ則チ左ノ如シ

問 御約束の習字本は昨日請取り申候

御約束の使者は先刺此より差出候

問 前ノ如キ文ニ於テ若シ上文現在ナルハ

如何ニ書クカ

答 前文ニ於テ若シ上ニ今或ハ只今等ノ現在

ノ文字アルハ下ニモ亦現在ノ文字ヲ用

ヒテ之ニ應ズ則チ左ノ如シ

御約束の習字本は唯今請取り申也

問 御約束の使者は此より今差出申也

此三時ノ外尚ホ必用ノ記法アリヤ

答 尚ホ種々ノ必用ナル記法アリ

問 種々ノ必用ナル記法ヲ教ヘヨ

答 種々ノ必用ナル記法ハ答者ニ於テモ固ヨ

リ 漆ク之ヲ示サントト望メ氏 紙敷限リア

リテ亦如何トモ為スト能ハズ 冀クハ次編

ヲ 緒テ其要法ヲ領ゼヨ 如クハ只今等ハ

日本文法問答

四編目次

第六回 文章論ノ上

文章ノ要旨

文章ヲ綴ル順序

互ル乎波ノ調

互ル乎波ノ係辞

係辞ノ部分

ヤツ<sup>カ</sup>八個ノ係辞ヲ結ベル例<sup>ムス</sup>

係辞ノ變化<sup>ヘンクワ</sup>

體言止ノ例<sup>テイゲンドメ</sup>

言ヒ係ノ結ビ辞<sup>カケムス</sup>

三段ノ係辞ヲ種々ニ結ベル例<sup>クサズクムス</sup>

互尔乎波ヲ誤レル文<sup>アヤマ</sup>

志。志。き。き。ノ辨<sup>ベン</sup>

係辞ノ相重ナル片ノ結辞<sup>アヒカサ</sup>

係辞ノ重キニ從テ結ベル例<sup>オモヒ</sup>

互尔乎波ヲ誤ルニ似テ誤ラザ

ル者<sup>モノ</sup>



日本文法問答四編

豊後 物集高見著

第六回 文章論ノ上

文章ト云フハ如何

文章トハ三品種ノ辞々ヲ彼此辨合シテ一

連ニ綴属セシ者ヲ云フ

文章ノ緊要タル所ハ何ニ在ルカ

文章ノ緊要ト爲ス所ハ我々が心中ニ見存

スル凡百ノ思念ヲ十分ニ書キ出シテ他人

ノ心中ニ親切ニ與フルニ在リ

三品種ノ辞々ヲ綴合シテ文章ト爲ス順序

ハ如何

答

三品辞ヲ綴合シテ文章ト爲ス順序ハ先ツ  
辞々ヲ綴テ句ヲ爲リ後ニ句々ヲ積テ章ヲ  
爲ル是文章綴属ノ定法ナリ然レ日本ノ  
文法ニ於テハ章句ニ先ダテ互尔乎波ヲ調

問

フル法ヲ知ラザル可ラズ若レ互尔乎波調  
ハザル片ハ句ハ句ヲ成サス章ハ章ヲ成サ  
ザルナリ

問

互尔乎波ヲ調フトハ如何ニ爲ス者ヲ云フ

答

互尔乎波ヲ調フトハ上ニぞト云ヘバ下ハ  
るト云ヒ上ニこそト云ヘバ下ニれト云フ  
類ヲ云フ

日本文章法問答

問 然ルハ上ノ辞ニ因テ下ノ結ビ辞ノ變ル

一アリヤ

答 然リ故ニ上ニ見ル、辞ニ因テ種々ノ結辞

アリ而シテ此結辞ト爲スハ二編ニ於テ論

ジタル用言ノ有ツ所ノ連體已然ノ格ハ共

ニ截斷ノ格ニ變リ復タ連體已然ノ用ヲ爲

サバルナリ

問 上ニ見ル、辞ハ何ト名クルカ

答 上ニ見ル、辞ハ係辞ト名ヅク

問 結ビニ用フル辞ハ何ト名クルカ

答 結ビニ用フル辞ハ結辞ト名ヅク

問 係辞ト爲ル辞ハ幾箇アリヤ

答 係辞ト爲ル辞ハ七個アリ而シテ此七個ノ係

辞ナキ者ヲ徒ト名ヅク

問 此七個ノ係辞ハ何々ト云フカ

答 七個ノ係辞ハはものぞや何こそト云フ

問 此七個ノ係辞ハ本ト何種ノ辞ヨリ出ヅル

答 七個ノ係辞ノ出所ハ左ノ如シ

は 二編ニ載タル指示辞ノハナリ

も 二編ニ載タル両辞ノもナリ

の 二編ニ載タル指示辞ノのナリ

ぞ 二編ニ載タル指示辞ノぞナリ

や 二編ニ載タル疑辞ノやナリ

何 二編ニ載タル疑辞ノなにナリ

こそ 二編ニ載タル指示辞ノこそナリ

問 此七個ノ係辞ニ部分アリヤ

答 部分アリ

問 七個ノ係辞ノ部分ハ如何

答 七個ノ係辞ノ部分ハ如何ニ  
輕重ニ因テ之

一段ノ係辞ハ

編 日本書紀 卷之六 月夜 答

二段ノ係辞 ニダニ のぞや何

三段ノ係辞 サンダニ こそ

一段ノ係辞ハ輕ケレバ之ヲ結ブ辞ハ皆截 イチダニ

斷ヲ用ヒ二段ノ係辞ハ重ケレバ之ヲ結ブ ダシ

辞ハ皆連體ヲ用ヒ三段ノ係辞ハ愈重ケレ スル

バ之ヲ結ブ辞ハ皆已然ヲ用フ而シテ七個ノ コト

係辞ナキ者ヲ呼ブ徒ト云フモ亦假ニ一段 カリ

ノ係辞トス

問答

此三段ノ係辞ヲ結ベル例ハ如何 コト

三段ノ係辞ヲ結ベル例ハ左ノ如シ サンダニ

第一段 イチダニ 此結ビハ截断格ノ辞ニテ此 コト

徒 タラシ 童子犬を伴る。

は ハ 童子は犬を伴る。

も モ 童子も犬を伴る。

第二段 ニダニ 此結ビハ連體格ノ辞ニテ此 コト

の ノ 童子が犬を伴る。

童子ぞ犬を伴るる

童子や犬を伴るる

童子いつ犬を伴るる

ど や 何

第三段

此結ビハ已然格ノ辞ニテ此ニ攀タルハ下ニ段活辞ナリ

童子こそ犬を伴るる

問 此ニ段ノ係辞ノト云フ例ニ攀タルニ童子がトのヲがニ易ヘ又何ト云フ例ニ攀タルニ童子いつト何ヲいつニ易ヘタルハ如

何ナル由縁カ

答 ニ段ノ係辞中ノのヲがニ易ヘ何ヲいつニ

易シハ其辞ニ易ヘテモ用フベキヲ知ラシ

メンノ用意ナリ

問 のヲがニ易ヘテモ其結辞ニ變リナキヤ

答 のヲがニ易ヘテモ結辞ニ變リナキハ固ヨ

リがハのト云フニ同ジキ辞義ナルヲ以テ

ナリ例ヘバ前ノ(童子が犬を伴るる)ト

云ヘルハ (童子の犬を伴るる) ト云フニ

同ジ尚ホ其例ヲ攀ゲハ

童子が書を読む。 童子の書を読む。

童子が茶を煮る。 童子の茶を煮る。

童子が鞆を蹴る。 童子の鞆を蹴る。

童子が犬を懼るる。 童子の犬を懼るる。

童子が馬を馳せる。 童子の馬を馳せる。

斯ノ如クがト云フモノト云フモ其意ニ變

ルヲナレ然レ氏此ニ攀タル例ハ書茶鞆犬

馬等ノ辞ヲ間ニ今メルヲ以テ尚ホ見難カ

ルベシ故ニ更ニ間ニ辞ヲ今マザル例ヲ示

スベシ

花が開く。 花の開く。

鳥が鳴く。 鳥の鳴く。

葉が落つる。 葉の落つる。

齡が老ゆる。 齡の老ゆる。

日本文法問答

空が晴るる。

空の晴るる。

水が流るる。

水の流るる。

問

いづれ何ニ易ヘテモ亦其結辞ニ變リ無キ

ヤ

答

いづれ何ニ易ヘテモ其結辞ニ變リ無キ

ハのヲがニ易ヘレニ同ジ然レ氏何ト云フ

ハ本ト疑辞ノ總稱ナレバいづれノミヲ以テ

何ニ易フベシト云フニハ非ズ大凡疑辞ノ

いづれ いか たり

たが など

ノ類ハ總テ何ノ部類ノ辞ナレバ何ヲ結

辞ヲ以テ結ブ者トス尚ホ例ヲ擧ゲバ

童子なにを待つ 童子たれを待つ

童子なにに戯るる 童子いかに戯るる

斯ノ如クなにト云フモたれいかにト云フモ

其結辞ニ變ルヲナシ然レ氏此ニ擧タル例



ハを<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>ト云<sup>フ</sup>接<sup>セ</sup>辞<sup>ジ</sup>ヲ間<sup>ア</sup>ニ<sup>ハ</sup>今<sup>イ</sup>メ<sup>ル</sup>ヲ以<sup>テ</sup>尚<sup>ナ</sup>  
ホ見<sup>ミ</sup>難<sup>ガ</sup>キ<sup>ヲ</sup>ア<sup>ラ</sup>ン故<sup>ユ</sup>ニ更<sup>サ</sup>ニ間<sup>ア</sup>ニ接<sup>セ</sup>辞<sup>ジ</sup>ヲ置<sup>オ</sup>  
サル例<sup>レ</sup>ヲ示<sup>シ</sup>スベシ

なに思ふ  
たが思ふ

なに見る  
たれ見る

なに爲<sup>ナ</sup>モ  
など爲<sup>ナ</sup>モ

なにならん  
いかならん

問 此三段ノ係辞ノ結ビヲ知ル可キ簡易ナル

法アリヤ

答 此三段ノ係辞ヲ結ブ簡易ナル法アリ前ニ

モ説キタル如ク一段係辞ノはもハ截断ノ

辞ニテ結ビニ段係辞ノのぞや何ハ連體ノ

辞ニテ結ビ三段係辞ノこそハ已然ノ辞ニ

テ結ビ之ニ反スルハ総テ互<sup>テ</sup>乎<sup>ニ</sup>波<sup>ハ</sup>ヲ誤<sup>ル</sup>

ル者ナリト知ルベシ

問 三段ノ結ト為ル辞ハ作用言形状言ノミカ

四ノ外ニ接辞ヲ以テ結ブアリ

答

作用言。形状言。ノ外ニ接辞ヲ以テ結ブアリ

問

體言ヲ以テモ亦結ブアリヤ

答

否。體言ハ結ビニ用ヒズ歌ナドニ或ハ體言

ヲ下句ニ置クヨアリテ是ヲ世ニ體言止ト

呼ブ然レ氏其結ビニ用レニハ非ザルナリ

問

體言止ハ如何ナル例アリヤ

答

體言ヲ下句ニ置テ止ムル例ハ  
人の心は其れぞ世の常

問

斯ノ如キモ常又ハ人ト云フ體言ヲ以テニ  
夢に見けん我ぞ其の人

段係辞ノぞノ結ビニ用ヒタルニハ非ザル

カ

答

是等ハ二段係辞ノぞノ結ビニ用ヒシニハ

非ズシテ結ビ辞ヲ省キタルナリ故ニ左ノ

如ク常又ハ人ト云フ文字ノ下ニなるト云

フ辞ヲ添フル片ハ意味明晰ニ知ルナリ

日本文法月夜

人の心は其れぞ世の常なる

夢に見けん我ぞ其の人なる

斯ノ如ク體言ヲ下ニ置テ止メタル者ハ総

テ別ニ結ブベキ辞ヲ省キレナリ然レモ亦

或ハ言ヒ係ケニテ結ベル者アリ是等ハ省

キレニハ非ザルナリ

問

言ヒ係ケニテ結ブト云フハ如何

答

ノ中ノ辞ニ言ヒ係ケテ持タシムルヲ云フ

例ヘ云(今ぞ越路に歸る山)(昔をのみぞ

忍ぶ草)ノ如ク歸る山忍ぶ草ノ歸る忍ぶ

ヲ借テ直ニぞノ結ビニ用ヒタルナリ尚ホ

云ハバ

今日ばよそにぞ菊の上の露

人に今宵ぞ逢ふ阪の關

斯ノ如キモ菊ヲ聞クニ言ヒ係ケテぞノ結

問

ビニ假リ逢ふ阪ノ逢ふヲ人ニ逢ふノ逢ふ  
 ニ借リテぞノ結ビニ用ヒシナリ  
 三段ノ係辞ヲ作用言。形状言。接辞ヲ以テ結  
 ブ時ハぞト云へバ。ト結ビこそト云へバ  
 れト結ブノミナラズ尚ホ多クノ結ビ辞ア  
 リヤ  
 然リ三段ノ係辞ニ依リテ種々ノ結ビ辞アリ  
 りるこそハ唯其一例ニ示セルノミナリ

答

問

三段ノ係辞ヲ結ブベキ種々ノ結辞ノ例ヲ  
 示セ

答

三段ノ係辞ヲ種々ニ結ブニ童子ノ學問上  
 ノ一事ヲ以テ左ニ其例ヲ示スベシ  
 一段係辞徒ハ結ベル例  
 左ノ徒ハもノ結ビニ用タル辞ハ皆截  
 斷ノ格ナレバ深く意ヲ注メテ其辞ノ  
 例ヲ見ルベシ

童子ドウジの學問ガクモン

善志ヨシ

童子ドウジの學問ガクモンは。

善志ヨシ

童子ドウジの學問ガクモンも。

善志ヨシ

童子ドウジの學問ガクモン

頼志タシ

童子ドウジの學問ガクモンは。

頼志タシ

童子ドウジの學問ガクモンも。

頼志タシ

童子ドウジの學問ガクモン

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモンも。

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモン

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモンは。

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモンも。

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモンは。

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモンも。

進スみキ

童子ドウジの學問ガクモン

進スまキ

日本文法問答  
一  
二

童子ドウジの學問ガクモンは進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモンも進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモン進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモンは進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモンも進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモン進スまむ。

童子ドウジの學問ガクモンは進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモン進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモンは進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモンも進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモン進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモンは進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモンも進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモン進スむなり。

童子ドウジの學問ガクモンは進スむなり。

進スむなりト結  
ブめりモ同ジ

日本文法問答  
十四



童子の學問ドウジガクモン

添ソフふ。

童子の學問ドウジガクモンは。

添ソフふ。

童子の學問ドウジガクモンも。

添ソフふ。

童子の學問ドウジガクモン

進スむ。

童子の學問ドウジガクモンは。

進スむ。

童子の學問ドウジガクモンも。

進スむ。

童子の學問ドウジガクモン

成ナる。

童子の學問ドウジガクモンは。

成ナる。

童子の學問ドウジガクモンも。

成ナる。

童子の學問ドウジガクモン

進スまん。

童子の學問ドウジガクモンは。

進スまん。

童子の學問ドウジガクモンも。

進スまん。

童子の學問ドウジガクモン

進スむらん。

童子の學問ドウジガクモンは。

進スむらん。

童子の學問ドウジガクモンも。

進スむらん。

此進コノスむらん、進スみけん進スみなんト

四編  
日本文法問答  
十六



云フモ亦同ジ

二段係辞のぞヲ結ベル例

左ノ四辞や何ノ結ビニ用ヒタル辞ハ

皆連體ノ格ナレバ深ク意ヲ注メテ其

辞ノ例ヲ見ルベシ

童子の學問のガト云フ善き

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ善き

童子の學問や何ト云フ善き

童子の學問のガト云フ頼志き

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ頼志き

童子の學問や何ト云フ頼志き

童子の學問のガト云フ進み志

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ進み志

童子の學問や何ト云フ進み志

童子の學問のガト云フ進み志

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ進み志

童子の學問や何ト云フ進み志

童子の學問のガト云フ進み志

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ進み志

童子の學問や何ト云フ進み志

童子の學問のガト云フ進み志

童子の學問をガクモンモ同ジ云フ進み志

童子の學問や何ト云フ進み志

童子の學問や。何ト云フ 進みに志

童子の學問の。ガト云フ 進みて志

童子の學問を。ガクモン 進みて志

童子の學問や。何ト云フ 進みて志

童子の學問の。ガト云フ 進まぬ。

童子の學問を。ガクモン 進まぬ。

童子の學問や。何ト云フ 進むなる

童子の學問の。ガト云フ 進むなる

童子の學問を。ガクモン 進むなる

童子の學問や。何ト云フ 進むなる

童子の學問の。ガト云フ 進むたる

童子の學問を。ガクモン 進むたる

童子の學問や。何ト云フ 進むたる

童子の學問の。ガト云フ 進むける

童子の學問を。ガクモン 進むける

童子の學問や。何ト云フ 進むける



童子の學問を

満つ

童子の學問や

満つ

童子の學問の

添ふ

童子の學問ぞ

添ふ

童子の學問や

添ふ

童子の學問の

進む

童子の學問を

進む

童子の學問の

成る

童子の學問を

成る

童子の學問や

成る

童子の學問の

進む

童子の學問ぞ

進む

童子の學問や

進む

童子の學問の

進む

童子の學問ぞ

進む

童子の學問を

満つ

童子の學問や

満つ

童子の學問の

添ふ

童子の學問ぞ

添ふ

童子の學問や

添ふ

童子の學問の

進む

童子の學問を

進む

童子の學問の

成る

童子の學問を

成る

童子の學問や

成る

童子の學問の

進む

童子の學問ぞ

進む

童子の學問や

進む

童子の學問の

進む

童子の學問ぞ

進む

童子の學問ガクモンや何ト云フ進スむらん

此進スむらんハ進スみけん進スみなんト

云フモ亦マタ同ジ

三段係辭サシダシノケイジこそヲ結ムスべル例

左サノこそノ結ムスビニ用モチヒタル辭ジハ皆ミナ已イ

然センノ格カクナレバ深フカク意コトヲ注トクメテ其辭ソノジノ

例レイヲ見ミルベシ

童子の學問ガクモンこそ善ヨクけれ

童子の學問ガクモンこそ頼タカ志シけれ

童子の學問ガクモンこそ進スみ志シ加カ

童子の學問ガクモンこそ進スみに志シ加カ

童子の學問ガクモンこそ進スみて志シ加カ

童子の學問ガクモンこそ進スまね

童子の學問ガクモンこそ進スむなれ

童子の學問ガクモンこそ進スみたれ

童子の學問ガクモンこそ進スみけれ

日本文法問答

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スめれ  
進むめれト結  
ブめれモ同ジ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スみぬれ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スみつれ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

續ツけ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

増マせ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

満ミて

童子ドウジの學問ガクモンこそ

添ソへ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スめ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

成ナれ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スまめ

童子ドウジの學問ガクモンこそ

進スむらめ

此コノ進スむらめハ進スみけめ進スみなめト  
云イフモ亦マシ同ドウジ

問

此コノ三段サンダン係ケイ辞ジヲ結ムスベル例レイニ攀ノボタル(童子ドウジの

學問ガクモン)ト云イフハ只タガ其一イツ例レイナレバ如何イカナル

辞ジニテモ其ソノ例レイニ準ナツヘテ結ムスブ中ナカハ誤アヤマリナキカ

日本文法問答  
廿一

答

然<sup>シカ</sup>リ (童子<sup>ドウジ</sup>の學問<sup>ガクモン</sup>) ト云<sup>イ</sup>フハ只<sup>タ</sup>其<sup>ソノ</sup>例<sup>レイ</sup>ニ取<sup>トリ</sup>

シマデナレバ是<sup>コレ</sup>ヲ (我<sup>ワ</sup>が運動<sup>ウンドウ</sup>) ニ易<sup>カ</sup>ヘ或<sup>ズヒ</sup>

ハ (彼<sup>カレ</sup>が習字<sup>テナラヒ</sup>) 等<sup>ナド</sup>ニ易<sup>カ</sup>ヘテ云<sup>イ</sup>フモ同<sup>オナ</sup>ジ例<sup>レイ</sup>

ヘバ

我<sup>ワ</sup>が運動<sup>ウンドウ</sup>は

善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>。

我<sup>カレ</sup>が習字<sup>テナラヒ</sup>也

善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>。

ノ如<sup>ゴ</sup>シ而<sup>シテ</sup>此<sup>コノ</sup>互<sup>ニ</sup>尔<sup>ヲ</sup>乎<sup>ハ</sup>波<sup>ハ</sup>ノ調<sup>トウ</sup>ヘヲ知<sup>レ</sup>ルハ先<sup>マ</sup>

ッ其<sup>ソノ</sup>誤<sup>アヤマ</sup>レル者<sup>モノ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>出<sup>イダ</sup>シ或<sup>ズヒ</sup>ハ其<sup>ソノ</sup>誤<sup>アヤマ</sup>ルニ似<sup>ニ</sup>テ

誤<sup>アヤマ</sup>ラザル者<sup>モノ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>分<sup>ワ</sup>ルヲ學<sup>マナ</sup>ブヲ以<sup>モツ</sup>テ捷徑<sup>チヤウジン</sup>ト

スベシ

問

誤<sup>アヤマ</sup>ル者<sup>モノ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>出<sup>イダ</sup>シ或<sup>ズヒ</sup>ハ誤<sup>アヤマ</sup>ルニ似<sup>ニ</sup>テ誤<sup>アヤマ</sup>ラザル

者<sup>モノ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>分<sup>ワ</sup>ルハ如何<sup>イカ</sup>ナル法<sup>ホウ</sup>ニ爲<sup>ナ</sup>シテ學<sup>マナ</sup>ブベ

答

誤<sup>アヤマ</sup>ル者<sup>モノ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>出<sup>イダ</sup>ス事<sup>コト</sup>ヲ學<sup>マナ</sup>ブハ左<sup>サ</sup>ニ出<sup>イダ</sup>ス文<sup>ブン</sup>章<sup>チャウ</sup>

ノ如<sup>ゴト</sup>キ互<sup>ニ</sup>尔<sup>ヲ</sup>乎<sup>ハ</sup>波<sup>ハ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>テ前<sup>マヘ</sup>ニ攀<sup>アゲ</sup>タル例<sup>レイ</sup>ニ照<sup>テラ</sup>

シテ其<sup>ソノ</sup>調<sup>トウ</sup>ヘルヤ否<sup>イナ</sup>ヤヲ知<sup>レ</sup>ルナリ

彼の學校は綺麗に建ち志。

彼の人はず曾て教師なり志。

問 此二章ノ文ニ見タルはハ一段ノ係辞ナラ

ズヤ

答 然リ一段係辞ナリ

問 一段係辞ノはナラバ(童子の學問は進み

き)ノ例ニ依リテ

彼の學校は綺麗に建ち志

彼の人はず曾て教師なり志

ノ如ク言ハザル可ラザルガ如シ如何

答 然リ一段係辞ナレバきト云フベキヲ誤レ

ルナリ若シ結辞ヲ志ト云ハバ係辞ヲ二段

ニ改メテ

彼の學校は綺麗に建ち志

彼の人はず曾て教師なり志

ノ如シ而メ此きト結ビ或ハ志ト結ブニ甚



ダ紛<sup>マガ</sup>ヒ易<sup>ヤス</sup>キ者<sup>モノ</sup>アリ左<sup>サ</sup>ノ文章<sup>ブンキョウ</sup>ヲ熟<sup>ジュク</sup>視<sup>シ</sup>セヨ

童子<sup>ドウジ</sup>は友<sup>トモ</sup>達<sup>ダチ</sup>の善<sup>ヨ</sup>きぞ善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>

女子<sup>コノメ</sup>は女<sup>メ</sup>子<sup>コ</sup>に習<sup>ナラ</sup>ふぞ善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>

問

此<sup>コノ</sup>二<sup>ニ</sup>章<sup>クワ</sup>ノ文<sup>ブン</sup>ニテハ互<sup>テ</sup>尔<sup>ニ</sup>乎<sup>ヲ</sup>波<sup>ハ</sup>ノ違<sup>チガ</sup>フヲ無<sup>ナ</sup>キ  
が如<sup>ゴト</sup>シ如何<sup>イカニ</sup>

答

否<sup>イナ</sup>々<sup>ク</sup>然<sup>シカ</sup>ラズ是<sup>コレ</sup>レ則<sup>スレバ</sup>チ互<sup>テ</sup>尔<sup>ニ</sup>乎<sup>ヲ</sup>波<sup>ハ</sup>ノ違<sup>チガ</sup>ヘル者<sup>モノ</sup>  
ニテ志<sup>シ</sup>トキヲ紛<sup>マガ</sup>ヘ易<sup>ヤス</sup>キ所<sup>トコロ</sup>ナリ故<sup>ユエ</sup>ニ先<sup>マ</sup>ヅ左<sup>サ</sup>  
ニ此<sup>コノ</sup>互<sup>テ</sup>尔<sup>ニ</sup>乎<sup>ヲ</sup>波<sup>ハ</sup>ヲ調<sup>トウ</sup>ヘテ示<sup>シ</sup>スベシ

童子<sup>ドウジ</sup>は友<sup>トモ</sup>達<sup>ダチ</sup>の善<sup>ヨ</sup>きぞ善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>

女子<sup>コノメ</sup>は女<sup>メ</sup>子<sup>コ</sup>に習<sup>ナラ</sup>ふぞ善<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>

問

然<sup>シカ</sup>ル由<sup>ユ</sup>ハ此<sup>コノ</sup>二<sup>ニ</sup>章<sup>クワ</sup>ノきハ前<sup>マヘ</sup>ニ攀<sup>アデ</sup>タル進<sup>ス</sup>みき  
ノきトハ異<sup>コト</sup>ナルカ

答

進<sup>ス</sup>みきノきトハ異<sup>コト</sup>ナリ前<sup>マヘ</sup>ニ攀<sup>アデ</sup>タル例<sup>レイ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>  
ヨぞハ二<sup>ニ</sup>段<sup>ダン</sup>係<sup>ケイ</sup>辞<sup>ジ</sup>ニテ善<sup>ヨ</sup>きノきハ其<sup>ソノ</sup>結<sup>ムス</sup>ビナ  
リ抑<sup>ソモ</sup>モ此<sup>コノ</sup>善<sup>ヨ</sup>きノきト進<sup>ス</sup>みきノきハ連<sup>レン</sup>體<sup>タイ</sup>ト  
截<sup>セツ</sup>斷<sup>ダン</sup>ノ差<sup>カ</sup>アリ善<sup>ヨ</sup>きハ形<sup>ケイ</sup>狀<sup>ゾウ</sup>言<sup>ゴン</sup>ニテ第<sup>ダイ</sup>四<sup>シ</sup>ノ轉<sup>テン</sup>

ジナレバ連體ナリ 二段係辞ヲ結ブハ連體ノ辞ヲ用フルナリ

みきのきハ過去辞ニテ 過去辞ノ解ハ 截斷 ニ編ニ在リ

ナリ 一段係辞ヲ結ブハ 截 故ニ此志トキ

紛ヒ易キヲ見分ルニハ先ヅ其形狀言カ過

去辞カヲ思ヒ見ルベシ 而メ若シ志ノ 形狀

言ナラバ截斷 三編ニ見ユ 三編ニ見ユ ト知リ 過去辞

ナラバ連體ト知リ 日本文典ニ詳ナリ 初學

形狀言ナラバ連體ト知リ 過去辞ナラバ 截

斷ト知ルベシ 今 形狀言ノ志 ト 過去辞ノ

志 ト 候セ テ 連體ノ體言ニ連ナリ

截斷ノ切レタル形ヲ示スベシ

形狀言ノ志 過去辞ノ志

高志 馨り志 花

遠志 零り志 雪

美志 驕り志 人

睦志 讀み志 書

日本文法問答 十六

形状言ノき。

過去辞ノき。

高き山

馨りき。

遠き國

零りき。

美き花

驕りき。

睦き友

讀みき。

斯ノ如ク一個ハ志ト云ヒテ切レ一個ハ志

ト云ヒテ續キ一個ハ志ト云ヒテ續キ一個

ハ志ト云ヒテ切ル、者ハ志キハ同ジ辞ナ

レ氏其属ク所ノ辞ノ種類ニ因テ斯ク變ル  
者ナレバ能ク其心ニ味ヘ知ルベシ

問

然ル中ハ前ノ(童子は友達ノ善きぞ善き)

(女子は女子に習ふぞ善き)トアル善き

ヲ善志ニ易フル中ハ二段ノぞヲ一段係辞

答

然リ善志ト結ブ中ハ二段ノぞヲ一段係辞

ノは或ハもニ易フベキカ  
ノはもニ置キ易フベシ則チ左ノ如シ

日本文法問答

問

童子は友達の善きは善志

女子は女子に習ふは善志

前文ノ(童子は友達の善きぞ善き) (女子

子は女子に習ふぞ善き) トアル善きぞ習

ふぞノぞハ善きニテ結ブ可レト雖モ其

童子は) (女子は) ノはハ童子の學問は

ノはニ同ジケレバ其はノ結ビハ何ヲ以テ

結ベルカ此二章ノ文中はノ結ビハ見エザ

答

ル如シ然ル井ハ此文モ亦誤レルニハ非ザ

ルカ誤レルニハ非ズ前文ノ(童子は) (女

子は) ノはハ問ヒノ如ク前ノ童子の學問

はノはニ同ジ而ノ又二章ノ文中ニハはノ

結ビハ無キナリ然レ氏本ト係辞ヲ三段ニ

分テル者ハ其辞ニ輕重ノ差別アルニ依レ

リ故ニ係辞相重ナル井ハ重キ方ニ從テ結

リ故ニ係辞相重ナル井ハ重キ方ニ從テ結

ブラ法トス彼ノ文ノ如キモ (童子は) (女  
子は) ノはハ一段係辞ニテ輕ク善きぞ習  
ふぞノぞハ二段係辞ニテ重ケレバ其重キ  
ニ就テ結ベルナリ

問

三段ノ係辞相重ナルハ總テ其重キ方ニ  
就テ結ブカ

答

然リ然レ氏三段ノ中二段三段ハ最モ重ケ  
レバ其辭ノ相重ナルハ各別ニ結ガル可

ラズ例ヘバ二段係辞ノトヤト重ナルハ  
ハハハハハノ結ビヲ用ヒヤハハノ結ビヲ用  
フ又二段係辞ノヤト三段係辞ノトヤト重  
ナルハハハハノ結ビヲ用ヒトヤト重  
結ビヲ用フル如シ

問

三段ノ係辞ノ重ナレルヲ各別ニ結ベル例  
ヲ示セ

答

三段ノ係辞ノ重ナルハ重キ方ニ就テ結ブ

例ト各別ニ結ブ例トヲ攀ゲバ左ノ如シ  
重キ方ニ從テ結ブ例

雪とのみこそ花は散らめ

一段係辞ナレ氏  
輕ケレバ結バズ

聲聞くとときぞ秋は悲志き

一段係辞ナレ氏  
輕ケレバ結バズ

各別ニ結ブ例

命をぞいかならんとは思ひ來志

花をこそ人や折るとて咎め志か

共ニ重ケレバ各別ニ結ベリ  
ノ係辞ニテ共ニ重ケレバ各  
別ニ結ベリ

此ニ攀タル結ビト前ノ三段ノ結ビトヲ照

レテ其例ヲ熟知スベシ

問 豆尔乎波ヲ誤ルニ似テ誤ラザル者ト云フ

ハ如何ナル例ヲ云フカ

答 互<sup>テ</sup>尔<sup>ニ</sup>乎<sup>ヲ</sup>波<sup>ハ</sup>ヲ誤<sup>ル</sup>ニ似<sup>テ</sup>誤<sup>ラ</sup>ザル者<sup>ト</sup>ハ例<sup>ト</sup>

へ<sup>バ</sup>一<sup>イ</sup>段<sup>ダ</sup>係<sup>リ</sup>辞<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>の<sup>ナ</sup>等<sup>ニ</sup>テ結<sup>ブ</sup>ベキ<sup>ニ</sup>ぬ

る<sup>ハ</sup>つ<sup>ル</sup>等<sup>ヲ</sup>用<sup>ヒ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>二<sup>ニ</sup>段<sup>ダ</sup>係<sup>リ</sup>辞<sup>ハ</sup>結<sup>ビ</sup>辞<sup>ト</sup>

ハぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>なる<sup>ハ</sup>等<sup>ニ</sup>テ結<sup>ブ</sup>ベキ<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>なり<sup>ハ</sup>等<sup>ヲ</sup>

用<sup>フ</sup>ル類<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>なり<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>段<sup>ダ</sup>ヲ云<sup>フ</sup>然<sup>レ</sup>氏<sup>ハ</sup>此<sup>レ</sup>

ハ是<sup>レ</sup>一<sup>ハ</sup>種<sup>ノ</sup>變<sup>ヘ</sup>格<sup>ニ</sup>テ初<sup>メ</sup>學<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>容<sup>易</sup>ク

學<sup>ビ</sup>得<sup>ベ</sup>キ<sup>ニ</sup>非<sup>ズ</sup>然<sup>レ</sup>氏<sup>ハ</sup>亦<sup>モ</sup>其<sup>ノ</sup>變<sup>ヘ</sup>格<sup>アル</sup>ヲ

知<sup>ル</sup>ニ非<sup>ズ</sup>ザレバ古<sup>ク</sup>人<sup>ノ</sup>正<sup>シ</sup>キ歌<sup>或</sup>ハ文<sup>ヲ</sup>

見<sup>テ</sup>直<sup>ニ</sup>誤<sup>レ</sup>リト錯<sup>シ</sup>視<sup>セ</sup>ンコトヲ恐<sup>ル</sup>ハコト

以<sup>テ</sup>今<sup>左</sup>ニ其<sup>一</sup>二<sup>ノ</sup>例<sup>ヲ</sup>掲<sup>グ</sup>ベシ

ぬ<sup>ハ</sup>つ<sup>ニ</sup>テ結<sup>ブ</sup>ベキ<sup>ヲ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>つ<sup>ル</sup>ニテ結<sup>ブ</sup>ベ

ル例<sup>ト</sup>

秋<sup>アキ</sup>風<sup>カゼ</sup>を松<sup>マツ</sup>の陰<sup>カゲ</sup>にて今<sup>イマ</sup>日は暮<sup>ク</sup>ぬ<sup>ル</sup>

鶯<sup>ウグヒス</sup>のま<sup>つ</sup>に音<sup>ネ</sup>せて春<sup>ハル</sup>も暮<sup>ク</sup>れぬ<sup>ル</sup>

此<sup>ニ</sup>二<sup>ノ</sup>個<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>段<sup>ノ</sup>係<sup>リ</sup>辞<sup>ヲ</sup>結<sup>ブ</sup>ベキ<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>つ<sup>ル</sup>ヲ以<sup>テ</sup>結<sup>ベ</sup>ルナリ

はづか志の杜の言葉散志果つる

山風に紅葉を海の物と為志つる

此二個ハ一段係辞ノ徒ヲ二段係辞ヲ結ブベキつるヲ以テ結ヘルナリ

ぬるなるニテ結ブベキヲぬなりニテ結

ベル例

いく夜寝覚めぬ須磨の関守

みやこの錦いくへかまみぬ

此二個ハ二段係辞ノ何ヲ一段係辞ヲ結ブベキぬヲ以テ結ベルナリ

白雲を君志も外に見るは何なり

山彦の應答へに懲りぬ心何なり

此二個ハ二段係辞ノ何ヲ一段係辞ヲ結ブベキなりヲ以テ結ナリ

日本文法問答四編終



白雲も煙も濃く長るる河は...

日本文法問答

五編目次

第七回

文章論の中

辞々ヲ連合スル例

體言ト體言トノ連合

用言ト用言トノ連合

體言ト用言トノ連合

用言ト體言トノ連合

五編  
日本文法  
月文  
目次

體言ト接辞トノ連合

用言ト接辞トノ連合

接辞ト接辞トノ連合

體言ト體言トノ間ニ接辞ヲ置タ

ル連合

用言ト用言トノ間ニ接辞ヲ置タ

體言ト用言トノ間ニ接辞ヲ置タ

レ連合

用言ト體言トノ間ニ接辞ヲ置タ

ル連合

體言ト用言トノ間ニ用言ト接辞

トヲ置タル連合

用言ト體言トノ間ニ體言ト接辞

トヲ置タル連合

第八回

文章論ノ下

五編  
日本文法  
月文  
目次

章句ヲ解剖シテ辞々ノ綴合ヲ見

ル例

句々ヲ綴合スル法

二句ヲ綴合スル例

三句ヲ綴合スル例

句尾ノ連用辞ノ変化

句尾ニ附ル連用辞

句尾ニ附ル連體辞

四句ヲ綴合スル例

五句ヲ綴合スル例

句ヲ積ム順序

文主格并ニ目的格

語脉

語脉ヲ誤レル例

句ノ綴合ニ生ズル變句

五編 日本文法月言文

豊後 物集 高見 著

第七回 文章論ノ中

問 互<sup>テ</sup>尔<sup>ニ</sup>乎<sup>ラ</sup>波<sup>ハ</sup>ノ調<sup>ト</sup>ハ前<sup>ゼン</sup>編<sup>ビン</sup>ニ於<sup>オ</sup>テ己<sup>ジ</sup>ニ之<sup>コ</sup>ヲ聞<sup>キ</sup>

キ今<sup>イマ</sup>此<sup>コノ</sup>編<sup>ビン</sup>ニ於<sup>オ</sup>テハ辞<sup>コトバ</sup>々<sup>々</sup>ヲ綴<sup>ツ</sup>リ合<sup>ア</sup>セテ文章<sup>ブンキョウ</sup>ヲ為<sup>ナ</sup>ス法<sup>ホウ</sup>ヲ聞<sup>キ</sup>クベシ

答 辞<sup>コトバ</sup>々<sup>々</sup>ヲ綴<sup>ツ</sup>リ合<sup>ア</sup>セテ文章<sup>ブンキョウ</sup>ヲ為<sup>ナ</sup>スハ先<sup>マ</sup>ヅ句<sup>ク</sup>ヲ作<sup>ツク</sup>ルヲ學<sup>マナ</sup>ビ後<sup>ノチ</sup>ニ其<sup>ソノ</sup>句<sup>ク</sup>ヲ積<sup>ツ</sup>ミテ章<sup>キョウ</sup>ヲ為<sup>ツク</sup>ルニ

日本文法問答

習ヒ及ブベシ

問 句ヲ作ルト云フハ如何

答 句ヲ作ルト云フハ辞々ヲ合セテ一節ノ語

ニ為スヲ云フ例ヘバ梅ト云フ辞ノト云フ

辞花ト云フ辞ヲ綴リ合セテ(梅の花)ト

云フ一個ノ語ニ為スヲ云フ此辞々ヲ合セ

テ一節ノ語ヲ作ルハ猶種々ノ布ヲ綴リ合

セテ一具ノ衣ニ縫ヒ成スガ如シ

問 句ヲ作ルニ種々ノ法アリヤ

答 句ヲ作ルニ種々ノ法アリ體言ト體言トヲ

連合シテ一句ト為ス一アリ用言ト用言ト

ヲ連合シテ一句ト為ス一アリ體言ト用言

トヲ連合シテ一句ト為ス一アリ用言ト體

言トヲ連合シテ一句ト為ス一アリ體言ト

接辞トヲ連合シテ一句ト為ス一アリ用言

ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス一アリ

問 體言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法及

ビ一句ト為セル例ハ如何

答

體言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ

櫻ト云フ言ト花ト云フ辞トヲ合セテ櫻

花ト為シ人ト云フ言ト心ト云フ辞トヲ

合セテ(人心)ト為シ河ト云フ言ト遊ト

云フ辞トヲ合セテ(河遊)ト為シ書ト云

フ言ト棚ト云フ辞トヲ合セテ(書棚)ト為

フ如合而シ此等ハ二物ヲ合セテ一物ニ呼

長做スヲ以テ又一ニ合體言ト云フ

體言ト體言トヲ連ネテ一句ト為ス例

都人 鄙人 里人 浦人

火桶 火鉢 水瓶

花時 雨天 寒天 秋風

春日 月光 夕月

筆架 書挾 水吞 水入

筆筒

手拭

酒盃

彼奴

彼男

吾兒

吾孀

問

用言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法及

ビ一句ト為セル例ハ如何

答

用言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ

讀ト云フ言ト始ト云フ辞トヲ合セテ讀

み始むト為シ習ト云フ言ト難ト云フ辞

トヲ合セテ習ひ難志ト為シ長ト云フ

言ト住ト云フ辞トヲ合セテ長く住む

ト為シ父ト云フ言ト熱ト云フ辞トヲ合セ

テ久く熱志ト為ス如シ而シ此業ハ二

事ヲ合セテ一事ニ呼ビ做スヲ以テ又一ニ

合用言ト云フ

用言ト用言トヲ連ネテ一句ト為ス例

讀み習ふ 書き習ふ 立ち出づ

飛び散る 住み馴る

日本文法問答

言ひ難志 聞き悪志 馴れ易志

受け難志 為易志

早く往く 晩く還る 善く為屯

悪く言フ 樂く思ふ

久く寒志 長く熱志 浅く青志

深く黒志 微く赤志

問

體言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法及  
ビ一句ト為セル例ハ如何

答

體言ト用言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ  
花ト云フ體言ト開ト云フ用言ヲ合セテ  
花開クト為シ人ト云フ體言ト行ト云フ  
用言トヲ合セテ人行クト為シ夜ト云  
フ體言ト明ト云フ用言トヲ合セテ  
夜明クト為シ天ト云フ體言ト曇ト云フ用言  
トヲ合セテ天曇ルト為シ光ト云フ體  
言ト映ト云フ用言トヲ合セテ  
光映屯



ト為シ氷ト云フ體言ト融ト云フ用言トヲ  
 合セテ（氷融く）ト為シ我ト云フ體言ト  
 讀ト云フ用言トヲ合セテ（我讀む）ト為  
 シ汝ト云フ體言ト見ト云フ用言トヲ合セ  
 テ（汝見る）ト為シ水ト云フ體言ト清ト  
 云フ用言トヲ合セテ（水清き）ト為シ珠  
 ト云フ體言ト美ト云フ用言トヲ合セテ  
 殊美志ト為ス如シ而シ其例ハ左ノ如シ

體言ト用言トヲ連ネテ一句ト為ス例  
 日出づ 月傾く 雨零る 雪積む  
 風吹く 火燃ゆ 水流る  
 人多志 荷重志 庭廣志 室狭志  
 露滋志 日高志 國遠志  
 天晴る 空曇る 夢見る 時過ぐ  
 年明く 年暮る 世治る  
 秋深志 春浅志 夏熱志 冬寒志

日長志

夜短志

時好志

光出づ

戦起る

恨有る

説話志

謠聞く

祭始る

納涼志

馨佳志

艶懐志

慎深志

偽無志

費多志

過少志

助多志

吾行く

吾去る

汝出づ

汝見る

彼進む

彼退く

彼待つ

此惟志

此正志

其欲志

其善志

彼辛志

彼美志

彼卑志

問

用言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法及

ビ一句ト為セル例ハ如何

答

用言ト體言トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ

行ト云フ用言ト人ト云フ體言トヲ合セテ

(行く人)ト為シ凋ト云フ用言ト花ト云

フ體言トヲ合セテ(凋む花)ト為シ長ト

云フ用言ト旅ト云フ體言トヲ合セテ(長

き旅タビト為ナシ貧マツシト云イフ用言ヨウゲント民タミト云イフ體タイ

言ゲントヲ合アハセテ（貪マツシき民タミ）ト為ナス而シカウシ其例ソノレイ

ハ左サノ如ゴトシ

用言ヨウゲント體言タイゲントヲ連ツラネテ一句ヒトクト為ナス例レイ

嘶イキく駒コマ泣ナく児コ傾カタく月ツキ洗アラふ衣コモノ

誘サソふ友トモ浮ウカぶ舟フネ樂タシむ親オヤ

鈍チき刀カタチ惡ワルき男ヲコ高タカき樓タカ浅アサき川カハ

遅オソき馬ウマ寂サマシき宿ヤド珍ウツクシき菓ワガモ

歌ウタふ歌カタ好ヨクむ業ノブ進スむ心ココロ住スむ世ヨ

見ミる夢ユメ曇クモる空ソラ映ウツる影カゲ白シロき色イロ

新アタシき年トシ悲カミき心ココロ惜ヲシき命イチ白シロき色イロ

辛カラき世ヨ遠トホき昔ムカシ近チカき頃コト

結ムスぶ氷コホリ映サむ光ヒカリ勝カつ争アラシ受ウケる惠メシ

為ナる誓チカモ強ツヨクる驕ワガハシ渡ワタる渡ワタシ

惜ヲシき別ワカ委クニき話ハナシ強ツヨクき零フリ樂タシき獵カ

尊タノき祭マツリ深フカき望ノゾミ久ヒサシき恨ウラミ

行く吾 進む吾 随ふ汝 羨む汝

語る彼 走る彼 睡る彼

問 體言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法及

ビ一句ト為セル例ハ如何

答 體言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ

童子ト云フ體言ト云フ接辞トヲ合セ

テ(童子よ)ト為シ鳥ト云フ體言ト飛ト

云フ接辞トヲ合セテ(鳥ど)ト為シ光ト云フ體

言ト成リト云フ接辞トヲ合セテ(光なり

)ト為シ争ト云フ體言トかなト云フ接辞

トヲ合セテ(争かな)ト為ス而シテ其例ハ

左ノ如シ

體言ト接辞トヲ連ネテ一句ト為ス例

児よ 女也 蝶よ 花也

月かな 雪なり 鳥かな 虫なり

春よ 秋也 心よ 夢也

問

用言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法及

空かな	影なり	闇かな	幻なり
遊よ	思也	嘆よ	樂也
句かな	氷なり	習かな	教なり
海よ	長よ	重也	寒也
樂かな	恠なり	貪かな	惜なり
我かは	汝かは	其也	此よ
彼かな	彼なり	君よ	

答

ビ一句ト為セル例ハ如何

用言ト接辞トヲ連合シテ一句ト為ス法ハ

進ト云フ用言トナリト云フ接辞トヲ合セ

テ（進なり）ト為シ許ト云フ用言トけり

ト云フ接辞トヲ合セテ（許けり）ト為シ

思ト云フ用言トト云フ接辞トヲ合セテ

（思也）ト為シ退ト云フ用言トキト云フ

接辞トヲ合セテ（退き）ト為シ懲ト云フ

用言トたりト云フ接辞トヲ合セテ (懲た  
 り)ト為シ易ト云フ用言トなりト云フ接  
 辞トヲ合セテ (易なり)ト為シ願ト云フ  
 用言トぞト云フ接辞トヲ合セテ (願ど)  
 ト為ス如シ

用言ト接辞トヲ連ネテ一句ト為ス例

吹よ 開や 見や 聞ぞ  
 待なり 持なり 催けり 磨けり

謝辭往たり 退たり 明ん 暮ん

散なん 訪なん 拂けん 撃けん

勵き 勉き 送つ 迎ぬ

欺志 驕ぶ 起ね 閉はや

讀よ 教よ 告ま志 載らん

重ら志 諫べ志 與めり 攻か

思か 返か志 絶か志

騒や 怕かな 宜ぞ 遅なり

日本文法

悪ごと志

狭ごと志

問 接辞ト接辞トヲ連合ンテ一句ト為ス

リヤ

答 接辞ト接辞トハ常ニ連合スル

物或ハ一事トナルニ非ザレバ句トハ稱フ

可ラズ

問 接辞ト接辞ト連合スル法及ビ例ハ如何

答 接辞ト接辞トヲ連合スル法ハたりト云フ

言ト也ト云フ辞トヲ合セテ

為シなりト云フ言トキト云フ辞トヲ合セ

テ

云フ辞トヲ合セテ

キト云フ言トぞト云フ辞トヲ合セテ

志きぞ

接辞ト接辞トヲ連合スル例

なりき なるぞ たりき たりぬ

たりつ。たりけり。たりぞ。  
 たるや。たるか。たるな。つるぞ。  
 つるや。けるぞ。けるや。けるなり。  
 きや。あや。あぞ。あか。  
 ざりき。ざるぞ。ざるや。なにか。  
 なにぞ。いづれか。いづれぞ。  
 などか。まぞや。まぞきぞ。  
 べあや。べきぞ。べくなん。

問

上カニ来ヨリ次シ第ダイニト説トカレルタル體タイ言ゲントレ體タイ言ゲントレ連レン合ガフセシ  
 シク句ク用ヨウ言ゲントレ用ヨウ言ゲントレ連レン合ガフセシ句ク或アルヒハセツ接セツ辞ジトレ連レン合ガフセシ者モノノゴト如ゴトキハ各オノ其ノ辞ジ中ノニシユ種シユ  
 類ルキアルヲ以モツテテ體タイ言ゲンニシ四シ種シユアリ用言ゲンニシ二ニ種シユ  
 者モノヲテ體タイ言ゲンハナニ何ニユ種シユノテ體タイ言ゲンヲサ指サスカ用ヨウ言ゲンハナニ何ニユ  
 種シユノヨウ言ゲンヲサ指サスカ分アキ明ラカナラザル如ゴトシ如何如何イカ  
 ニシテ之ヲ知ルベキカ



答

問

斯ク辞々ノ連合ヲ説テ其所ニ何種ノ辞ト  
 云フヲ言ザル者ハ已ニ初編ニ編ニ其辞ノ  
 何種タルカラ示セルヲ以テナリ故ニ體言  
 ハ何ノ體言カ用言ハ何ノ用言カ接辞モ亦  
 何ノ接辞カヲ知ント欲セバ辞ノ活用或ハ  
 形ヲ推シテ初編ニ編ニ遡リテ其果ノ何辞  
 ニ係ルカヲ會得スベシ  
 辞々ノ連合ハ大抵前ニ説ケル如キカ

答

然リ然レ此體言ト體言ト連合ノ間ニ接  
 辞ヲ置ク者アリ用言ト用言ト連合ノ間ニ  
 接辞ヲ置ク者アリ體言ト用言ト連合ノ間  
 ニ接辞ヲ置ク者アリ用言ト體言ト連合ノ  
 間ニ接辞ヲ置ク者アリ又體言ト用言ト連  
 合ノ間ニ用言ト接辞トヲ置ク者アリ用言  
 ト體言ト連合ノ間ニ體言ト接辞トヲ置ク  
 者アリ

日本文法問答  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

問 體言ト體言ト連合ノ間ニ置ク接辞ノ名及

ビ置ケル例ハ如何

答 二個ノ體言ノ連合ノ間ニ置ク接辞ハ歎辞

ノ也現在辞ノなる指示辞ノのかトス而シ

其置ケル例ハ左ノ如シ

花や花 君や君

國なる親 家なる兒

雪の目 月の夜

君が為 我が身

問 用言ト用言ト連合ノ間ニ置ク接辞ノ名及

ビ置ケル例ハ如何

答 用言ト用言ト連合ノ間ニ置ク接辞ハ種類

甚ダ多シ故ニ今ハタゞ其一二ノ例ヲ左ニ

擧グベシ 二個ノ用言ノ間ニ置ク接辞ハ初

テ見ル 然レ氏尚ホ其委キヲ知ラント欲セ

ハ二編ニ出シ、二十種ノ接辞ニ用言ヲ係

五編 日本文法問答 十五

ケ 試ミバ 自ラ 悟ル ア ラン

持テ 行ク

立テ 出ヅ

聞デ 去ぬ

知デ 過ヅ

語ツ、 睡ル

怒ツ、 起ツ

抱ナガリ 走る

遊ナガリ 暮ル

熱ゾ 照ル

寒ゾ 吹ク

恠ヤ 思ふ

悲ヤ 有ル

青コソ 染レ

赤コソ 塗レ

均なん 有る

委なん 有る

問

體言ト 用言ト 連合ノ 間ニ 置ク 接辞ノ 名及

ビ 置ケル 例ハ 如何

答

體言ト 用言ト 連合ノ 間ニ 置ク 接辞ハ 種類

甚ダ 多シ 故ニ 今ハ タゞ 其一ニ 例ヲ 左ニ

舉グ ベシ 體言ヲ 承テ 用言ニ 續グ 接辞ハ 総

學日本 文典ニ 就テ 接辞ノ 格ヲ 見ヨ

日ハ 出ヅ

月モ 傾ク

雪ユキが零ツる

火ヒや燃モユる

人ヒトは多オホ志

山ヤマの深フカき

日ヒや高タカき

天ソラは晴ハる

時トキが過スグる

世ヨや治ヲサマる

雨アメぞ止ヤむ

水ミヅこそ流ながるれ

荷ニも重オモ志

野ノぞ廣ヒロき

國クニこそ遠トホけれ

空ソラも曇クモる

年トシぞ暮シユルる

心ココロこそ和なれ

秋アキは深フカ志

夏ナツの苦クルシき

日ヒや長ナガき

光ヒカリは出イづ

恨ウラミが有アる

謡ウタや聞キく

馨カサリは佳ヨ志

慎ツシミの深フカき

春ハルも浅アサ志

冬フユぞ寒サムき

夜ヨこそ短ミジカけれ

戦タケも起オコる

話ワタシぞ為スる

祭マツリこそ始ハジメれ

艶ニホヒも懐ナツメ志

助タスケぞ多オホき

五編 日本文法問答

費ツヒエや多オホき

吾ワレは行ユく

汝ナチが出イッる

彼カレや進スむ

此コは正タ志

其ソレが善ヨき

彼アレや辛カラき

偽イツこそ無ナけれ

吾ワレも行ユく

汝ナチぞ見ミる

彼カレこそ退シラッけ

此コも恠アヤ志

其ソレぞ欲ホシき

彼アレこそ美ウツクシけれ

問

用言ヨウゲント體言タイゲント連合レンガフノ間マニ置オク接辞セツジノ名ナ及オヨビ

置オケル例レイハ如何イカニ

答

用言ヨウゲント體言タイゲント連合レンガフノ間マニ置オク接辞セツジハ種類シュルビ

甚シダ多オホシ故ユニ今イマハタニ其ソノ一ヒト二ニノ例レイヲ左サニ

舉アグベシ用言ヨウゲンヲ承テテ體言タイゲンニ續ツク接辞セツジハ總ソウ

學ガク日本ニッポン文典ブンテンニ就ツテ接辞セツジノ格カクヲ見ミヨ

嘶イナくなる馬ウマ 泣ナくなる兒コ

傾カサきたる月ツキ 洗アラひたる衣コトモノ

鈍ニきごととき刀タチ 浅アサきごととき川カハ

謡ひつる歌

進みぬる心

結びける氷

勝ち志争

行かぬ吾

語らぬ彼

好みつる業

住みぬる世

映ちける光

受け志惠

退かさる吾

睡らざる彼

問

置ケル例ハ如何  
體言ト用言ト連合ノ間ニ用言ト接辞トヲ

答

置ケル例ハ左ノ如シ  
體言ト用言ト連合ノ間ニ用言ト接辞トヲ

雨は強く零る

天は清く晴る

戦も早く已む

吾見て習ふ

風は烈く吹く

世は安く治る

敵も全く亡ぶ

人見て學ぶ

問

ケル例ハ如何  
用言ト體言ト連合ノ間ニ體言ト接辞ヲ置

答 用言ト體言ト連合ノ間ニ體言ト接辞トヲ

置ケル例ハ左ノ如シ

傾たる秋の月

嘶く厩の馬

飢たる節の食

浅き流の川

進む時の心

這ふ兎の看護

遊ぶ日の獵

尊き神の祭禮

第八回 文章論ノ下

問 辞々ノ連合ハ此各種ノ例ノ外ニハアル

無キカ

答 然リ辞々ノ連合ハ此外ニハアル

一ニノ文章或ハ歌ヲ解剖シテ見ヨ自ラ

悟ル所アルベシ而シテ若シ此解剖ヲ為ント

欲セバ先ヅ上ニ擧タル各種ノ例ヨリ記エ

各種之例

第一 體言ト體言トノ連合

第二 用言ト用言トノ連合

第三 體言ト用言トノ連合

第四 用言ト體言トノ連合

第五 體言ト接辞トノ連合

第六 用言ト接辞トノ連合

第七 接辞ト接辞トノ連合

第八 體言ト體言トノ間ニ

接辞ヲ置タル連合

第九 用言ト用言トノ間ニ

接辞ヲ置タル連合

第十 體言ト用言トノ間ニ

接辞ヲ置タル連合

第十一 用言ト體言トノ間ニ

接辞ヲ置タル連合

第十二 體言ト用言トノ間ニ

用言ト接辞ヲ置タル連合



第 十三 用言ト體言トノ間ニ

體言ト接辞トヲ置タ

ル連合

問 左ノ二首ノ歌ヲ解剖シテ辞々ノ連合ノ如

何ナルカラ示セ

龍田川 紅葉乱テ 流めり

渡ば錦 中や絶なん

待つ人に 有ぬ物から 初鴈の

今朝鳴く聲の 珍かな

答 二首ノ歌ノ中先ツ龍田川ノ歌ヨリ解剖シ

テ辞々ノ連合ヲ示スベシ

龍田川 體言ト體言トノ連合

紅葉 體言

乱テ 用言ト接辞トノ連合

流めり 用言ト接辞トノ連合

渡ば 用言ト接辞トノ連合

錦 體言

中や トノ連合 體言ト接辞

絶なん トノ連合 用言ト接辞

後ノ歌

待つ人に トノ連合 體言ト接辞

有ぬ トノ連合 用言ト接辞

物から トノ連合 體言ト接辞

初鷹の トノ連合 體言ト接辞

今朝 言體

鳴く声の トノ連合 體言ト接辞

珍かな トノ連合 用言ト接辞

此後ノ歌ノ初句(待つ人に)ノ待つ人ハ

用言ト體言ト連合セシナリ而シテ此初句ヲ

體言ト接辞トノ連合ト説シハ木ト體言ニ

續ケル用言ハ其體言ノ形容詞タルヲ以テ

此連合ヲ直ニ一個ノ體言ト看做セバナリ

體言ニ續ケル用言ハ皆形容詞 第三句ノ

問

初鴈（鳴く声） 第四句ノ（モ） 亦然リ

古今集ノ序ノ中ナル左ノ二節ヲ解剖シテ

其辞々ノ連合ヲ示セ

第一節

猛き物部（心）ノ心（を）も 慰（は）るは

歌なり

第二節

天地（の） 開（け）始（り）ける 時（より）

出来にけり

答

此二節ノ文ヲ解剖シテ辞々ノ連合ヲ示セ

左ノ如シ

第一節

猛き物部（の） 體言ト接辞

心（を）も 體言ト連合

慰（は）るは 用言ト接辞

歌なり 體言ト連合

五 續 日本文法 卷 一 七三

第二節

天地の

體言ト接辞  
トノ連合

開け始りける

用言ト接辞  
トノ連合

時より

體言ト接辞  
トノ連合

出来にけり

用言ト接辞  
トノ連合

尚ホ此二節ヲ

細ニ解剖スル

ホハ則チ左ノ

如シ

第一節

形状言連  
體ノ格

猛き

物部

用言ト體言トノ連合ニ  
テ猛きハ物部ノ形容詞の

體言ト體言トノ間ニ  
接辞ヲ置タル連合

心

を

接辞ト接辞  
トノ連合

慰るは

歌なり

第二節

天地アツチノの

開ヒラけ始ハジり

用言ト用言ト連合

ける

時トキより出イ来キ

にけり

接辞ト接辞ト連合

問

此コノ辞コトバ々々ヲ連ツネテ為ナシタル句クヲ二フタ個ツ綴ツリ合アス

ルニ法シカタアリヤ

答

二フタツク句クヲ一ヒトツ個ツニ綴ツリ合アスルニ其ソノ法シカタアリ例タトハ

ハ句クノ已ナニ切キレタル者モノハ兩フタ辞コトバノトトヲ以モテ

其ソノ連ツ續キヲ為ナシ句クノ尾スエノ連レ體タイヲ兼カタル者モノハ直ヂキ

ニ體テイ言ゲンヲ以モツテ續ツクル類タカヒナリ今イマ二フタツク句クノ間アヒダニ

スカノ如ゴトキ斜ナメナル線センヲ施ホドシテ連ツ綴キノ記シル号シト為ナ

シ其ソノ例レイヲ左サニ示シメスベシ

天ソラ晴ハると日ヒ出イづ

天ソラ曇クモると雨アメ零フる

夜ヨ更フくと虫ムシ鳴ナく

問答

花開くと鳥囀る

日の長き時は春

夜の短き時は秋

雷の鳴る時は夏

雪の零る時は冬

問

三句ヲ一個ニ綴リ合スル例ハ如何  
三句ヲ一連ニ綴リ合スル例ハ左ノ如シ

答

童子よ父母の意に違ふな

童子よ教師の命に背くな

童子よ説話を文章に綴れ

童子よ感あらば歌を詠め

問

此三句ヲ綴リ合セシ四節ノ中に於テ(父  
母の意に)(教師の命に)ノ如ト云フ辞

又(文章を)ノをト云フ辞(感あらば)

ばト云フ辞ハ前ニ擧タル辞々連合ノ例

中ニ見エザルハ如何

答

此四節ニアルにをばノ三辞ハ前ノ連合ノ  
 例ニハ出サズ何トナレバ前ノ連合ノ例ハ  
 一言一辞毎ニ互ル乎波ヲ調ヘタルヲ以テ  
 總テ其言辞切テ續カズ一言一辞モ互ル乎  
 語ヲ成ス一能ハザル例ハ天晴る日出づ  
 譯ハ已ニ三編ニ説リ例ハ天晴る日出づ  
 ノ二句ヲ合セテ(天晴る日出づ)ト云フ  
 片ハ二事ニ分レテ一事ニ為ラザル如シ然  
 ルニにをばノ如キヲ句尾ニ置クキハ用言

問

ニ連ナル辞ナルヲ以テ續キテ切レネバ互  
 ル乎波ヲ調フル一能ハズ例ハ(命に背  
 くな) (文章に綴れ)ノ如シ故ニ此三辞  
 ハ前例ニ出ス一ヲ得ザリシナリ  
 此三辞ヲ句尾ニ置ク一能ハガラバ如何ナ  
 ル片ニ用フル者ト為スカ  
 答  
 句尾ニ置ク一能ハズトハ一句ノ互ル乎波  
 ヲ調フル上ニテ謂ヘルナリ數句ヲ綴属ス

編  
 日本文法問答  
 十  
 八

ル片ニ至テハ句尾ニ置ク一常ナリ例ヘバ

(梅の花に鶯は鳴く) (母親を嬰兒は慕ふ)

ふ)ノ如シ然レモ總テ用言ニ連ナル接辞

ハ語勢ノ變動ニ從テ種々ニ變化スル者ナ

リ今其一例ヲ示スベシ

印ハ其所ニテ詞ノ切

正格

鶯は梅の花に鳴く  
嬰兒は母親を慕ふ

変格

鶯は鳴く  
梅の花に  
嬰兒は慕ふ  
母親を

梅の花に鳴く  
鶯は

母親を慕ふ  
嬰兒は

依レバはモ亦用

此変格ノ後ニ舉タル例ニ依レバ

問 答 然リハモ亦連用ノ格ヲ有テリ

問 然ラバ用言ニ連ナル接辞ハにをばノ上ニ



答

はフ加ヘテ四辞アリト為スカ

否イナ用言ニ連ナル接辞ハ此四辞ノミナラバ

二編ニ舉タル各種ノ接辞ノ中ヲ數ヘバ數オホ

十辞ニ至ルベシ

問

體言ニ連ナル接辞モ亦アリヤ

答

體言ニ連ナル接辞モ亦アリ

問

二編ニ舉タル接辞中ヨリ用言ニ連ナル者モ

及ビ體言ニ連ナル者ヲ抄出シテ示セ

答

二十種ノ接辞ヨリ體言或ハ用言ニ連ナル

ベキ辞ヲ集メバ左ノ如シ四編ニ説タル豆

結辞中ニ體言ニ續ク接辞ヲ

○用言ニ連ナル接辞

にヘのがぞ

をほこそなんなむ

なりたりざりでむ

かかもや辞疑やもいかに

など かは やは と とも  
 ど ども も つゝ ながら  
 せら さへ だに ほど ばかり  
 のみ まで める まゑく  
 べく ごとく ば より から  
 ゆゑ  
 ○體言ニ連ナル接辞  
 や 嘆 づ け ぬ  
 辞 の が なる ける

二回 たる つる ん まゑ ざる  
 けん 志 に 志 て 志 ぬる  
 志 ぬ 辞 否 不 らん ら 志 まゑ ざる  
 此用言及ビ體言ニ連ナル接辞ヲ用ヒテ四  
 句ヲ一個ニ綴リ合スル例ヲ示セ  
 用言及ビ體言ニ連ナル接辞ヲ用ヒテ四句  
 一連ニ綴リ合スル例ハ左ノ如シ

童子や文典は文法を解たる書ぞ

童子は辞書は辞義を解き志書ぞ

彼塾は此人の學問を為志處なり

此鳥は常に彼林に棲たる鳥なり

問 此二個ノ接辞ヲ用ヒテ五句ヲ一連ニ綴リ

合スル例ヲ示セ

答 二個ノ接辞ヲ用ヒテ五句ヲ七連ニ綴リ合

スル例ハ左ノ如シ

我は汝と往昔此花園の花を見き

我は母の懐にて往昔此雪を見き

問 句ヲ積テ文章ヲ為スト云フハ如何

答 句ヲ積テ文章ヲ為ストハ前ヨリ説キ来タ

ル如ク二句ヲ積ミ三句ヲ積ミ漸々ニ積テ

數十句數百句ニ至ル者ナリ其句ノ多キト

少キトハ思想ノ多少ニ依ル故ニ少キハ二

句三句ニテ盡ル者アリ多キハ百句二百句

ヲ累テ終ラザル者アルベシ譬ヘバ風ノ吹

クテ見テ風ノ吹クヲ書クニハ（風吹ク）

ト書キ其風烈キキハ（風烈ク吹ク）ト書

キ又其風ノ樹木ノ枝ヲ折ルキハ（風烈ク

吹テ樹ノ枝を折る）ト書クガ如シ

句ヲ積ムニ順序アリヤ

句ヲ積ムニ順序アリ始メニ文主ト為ルベ

キ者ヲ置キ次ニ其目的ト為スベキ事物ヲ

問答

置キ其次ニ作用言即チ文主ノ目的ニ向テ

為ス作業ヲ記スナリ

此順序ヲ見ルベキ例ヲ示セ

此順序ハ則チ左ノ例ノ如シ

問答

「文主ト為ル者」  
童子  
「文主ノ作業」  
書を讀む

目的ト為ル事物

「文主ト為ル者」  
童子  
「文主ノ作業」  
字を習ふ

目的ト為ル事物

問 句ヲ積ムニ法アリヤ

答 句ヲ積ムニ法アリ是ヲ語脈ト云フ

問 語脈ト云フハ如何

答 語脈トハ語ノ連絡ヲ云フ譬ヘバ上句ノ語

ノ遙ニ下句ノ語ニ通ジ下句ノ辭ノ遠ク上

句ニ達スル者ヲ云フ

問 語脈ヲ見ル法及ビ視易キ語脈ノ見レタル

例ヲ示セ

答

語脈ヲ見ル法ハ其辭ノ格ヲ推シテ其辭ノ

何辭ニ通ズルカラ知ルナリ例ヘバ句尾ニ

連用辭續ク辭アル句ヲ上ニ用フルキハ下

ニハ必ズ之ニ應ズベキ用言アル句ヲ置カ

ル可ラズ句尾ニ連體辭體言ニアル句ヲ上

ニ置クキハ下ニハ必ズ之ニ應ズベキ體言

アル句ヲ用ヒザル可ラズ左ニ舉ル例ヲ見

吾は麗く開きたる薔薇の花を見き  
は。ハ用言ニ續ク格ノ辞ニテ下ノ見キト云フ作用言ニ續ケリ

は。ハ用言ニ續ク格ノ辞ニテ下ノ麗美志ト云フ形状言ニ續ケリ

薔薇は其花麗くて其香美志  
此でモ上ノは。ト其格同ジ

昨日零り去稀なる大雪に木は折たり  
去ハ體言ニ續ク格ノ辞ニテ下ノ雪ト云フ體言ニ續ケリ

庭に積たる山の如き雪は未だ融ぢ  
たるハ體言ニ續ク格ノ辞ニテ下ノ雪ト云フ體言ニ續ケリ

庭に積たる山の如き雪は未だ融ぢ  
は。ハ連用言ナリ

問 此語脉ト云フハ常ニ誤ルトアリヤ  
答 動スレバ誤ルトアリ而メ此語脉ヲ調ノル

ニハ自他或ハ時刻ニ於テモ同ジ理ナレバ  
更ニ三編ヲ返テ其説ヲ合セ見ヨ

問 此語脉ヲ誤レル例ハ如何

答 語脉ヲ誤レル者ハ大抵左ノ例ノ如シ

散る花の憂さをも知らで 鶯の聲  
ルニ下句ニ用言ナシ  
ハ用言ニ續ク辞ナ  
レバ知ると云フ用言  
ケリ 續  
ぬハ體言ニ續ク辞ナ  
ルニ下句ニ體言ナシ

日暮るとも月の光りに道は惑はぬ  
にハ共ニ用言ニ 續ク 辞ニテ  
惑ふト云フ用言ニ 係レリ  
ルニ下句ニ體言ナシ

問 此語脉ヲ誤レル者ヲ改ムルニハ如何ニ為

ス可キカ

答 語脉ヲ誤レル者ヲ改ムルニハ誤レル所ノ

辞ヲ推スキハ明瞭ニ知ラル、ナリ前ノ

憂さをも知らで 鶯の聲ノ如キハでノ 辞

連用ニシテ下ニ續クベキ用言ナキヲ以テ

誤レルナレバ下ニ用言ヲ置クカ或ハ體言

ヲ用言ニ改ムルナリ例ヘバ (鶯の聲) ト

云フヲ (鶯の鳴く) ト為サバドト云フ連

用辞ハ鳴くと云フ用言ヲ得テ續クヲ以テ

其誤リハ則チ直ルベシ又後ノ (道は惑は

ぬ) ノ如キモぬノ辞連體ニシテ下ニ續ク

ベキ體言ナキヲ以テ誤レルナレバ下ニ體

言ヲ置クカ或ハ連體辞ヲ截断辞ニ改ムル

ナリ 四編ノ互ル乎波ノ調例ヘバ (惑はぬ

) ト云フヲ (惑はぬ) トぬヲぬニ易ヘバ

則チ誤リハ直ルベシ

問 前ニ擧タル (道は惑はぬ) ヲ (道は惑は

ぬ) ニ改ノバ其一句ハ調ヘ氏惑はぬハ現

在ヲ云ノ辞ニアラズヤ

答 然リ現在ヲ云フ辞ナリ

問 然ルキハ上句ノ (日暮るとも) ト云フハ

已ニ暮レタルニハ非ズ若ン暮ル氏ト云フ



義ナレバ未来ヲ云フ辞ナリ上句ハ未来ヲ  
云ヒ下句ハ現在ヲ云ハバ三編ニ説カレク  
ル時刻ノ照應ヲ失フユエ是亦語脈ヲ誤ル  
ニ非ズヤ

答

然リ語脈ヲ誤ルナリ然レバ前ニ（道は惑  
はぬ）トアルヲ（道は惑はぬ）ト改メ  
ルハ其一句ノ誤リヲ直シ、ノミニテ未ダ  
全句ノ照應ニハ説キ及バザルナリ故ニ今

ハ其全句ノ上ニ就テ論ゼン先ヅ（道は惑  
はぬ）ノ一句ハ之ヲ（道は惑はぬ）ト改  
ムルヲ以テ現在ニナルニ非ス惑はぬモ惑  
はぬモ共ニ固ヨリ現在ヲ云フ辞ナリ而シ  
カミノク上句ノ照應ヨリ論ズルハ上句ハ未来ヲ  
云フ辞ナレバ下句ニ於テモ亦必ズ之ニ應  
ジテ未来ニ言ザル可ラズ然ルハ前句ノ  
如キハ左ノ如ク改ムベシ

三十一

日暮るとも月の光りに道は惑は志。

問

彼此ノ句ヲ綴合スルキ其綴合ノ為ニ句ニ

変勾ヲ生ズルナキヤ

答

変勾ヲ生ズル者アリ或ハ変勾ヲ生ゼザル

者アリテ一定セズ即チ句尾ノ體言ニ終リ

タル者ハ變勾セズ用言ノ體言ニ連句尾ノ

用言ニ終リタル者ハ變勾ス體言ノ用言ニ

問

變勾スル者ノ例ハ如何

變勾スル者ハ句尾ノ用言ニ終リタル者ニ

テ例ヘバ(書を讀みき)ト云フ句ヲ以テ

(高き机)ト云フ句ニ綴リ合スルキハ讀

きト云ノキヲ志ニ易ヘテ(書を讀み志高

き机)ト為スガ如シ

變勾スル者ノ例。印ノ辞ハ句尾ノ辞

問 答

光り涼ヒカスミ者モ 夏ナツの夜ヨの月ツキ  
影カゲ明アキラカなりニ 秋アキの夜ヨの月ツキ  
光ヒカりスミ凄アサシ者モ 冬フユの夜ヨの月ツキ

變ヘン句コウセザル者モノ例レイハ如何イカニ

變ヘン句コウセザル者モハ句尾クノヲリノ體言テイゲンニ終ハリタル者モ

ニテ例レイヘバ（彼の筆）ト云イフ句クヲ以モッテ（

字ジを書カキ志シ筆ヘツなり）ト云イフ句クニ綴ズリ合アスル

中ナカハ彼カノの筆ヘツト云イフ句クノ尾ヲリニ一ヒト個ツノ連用辞レンヨウジ

ヲ附ツケケテ連用辞レンヨウジハ用言ヨウゴンニ（彼の筆は字を

書カキ志シ筆ヘツなり）ト為ナスガ如ゴトニ連用辞レンヨウジヲ句尾クノヘ

ノ句クニ用言ヨウゴンアルヲ以モッテ

其ソノレニ續ツクル為ナリ例レイハノ辞ジハ二句ニクノ間マヲ

春ハルの夜ヨの月ツキは影カゲ朧オウロウなり

夏ナツの夜ヨの月ツキは光ヒカり涼スミ者モ

秋アキの夜ヨの月ツキは影カゲ明アキラカなり

冬フユの夜ヨの月ツキは光ヒカり凄アサシ者モ

五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

問

斯ノ如ク二句ヲ接續スル上ニ就テハ尚ホ  
多クノ法アリヤ

答

二句ヲ接續スル上ニ就テハ尚ホ種々ノ法  
アリ然レモ前條ニ説ケル辞々ノ連合シテ  
句ト為ス法ヲ學ビ而シテ其二三ノ句ヲ綴屬  
スベキ法ヲ知ラバ其余ハ自ラ會得スル  
アルベシ此編ハ始ヨリ紙數ニ限リアリテ  
答者ノ言ヲ盡スル能ハズ况ヤ意ヲ盡スル

於テヲヤ故ニ此篇ニ漏タル者及ビ歌ニ

詠ムベキ辞ノ綴リノ如キハ更ニ後編ニ説

キ出スヲ見ヨ

日本文法問答五編終

明治十一年三月廿九日版權免許  
同 年四月十五日出版發賣

著者

物集高見

大分縣士族

第一大區一小區  
三年町二番地寄留

出版人

片山武兵衛

東京府平民

第一大區十三小區  
濱町二丁目十六番地

發賣人

出雲寺萬次郎

同書林

同大區同小區  
横山町二丁目一番地

